

2 0 1 9 年度
武道等指導充実・資質向上支援事業
実践事例報告集

令和 2 年 8 月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、「2019年度武道等指導充実・資質向上支援事業」において、委託先の各教育委員会が取り組んだ複数種目の武道指導の実践事例の一部を、スポーツ庁でとりまとめたものです。わが国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにするよう、地域の指導者の協力を得て、複数種目の武道指導等の多様な武道指導に取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目次

<複数種目の武道指導として【空手道】に取り組んだ実践>

- ◇【柔道・空手道】武道種目の共通性に気付くとともに、対人技能を安全に行う授業の展開
網走市立呼人中学校（北海道）・・・・・・・・・・ 1
- ◇【空手道・柔道】外部講師を活用した、空手道と柔道による複数種目の武道実践例
太田市立南中学校（群馬県）・・・・・・・・・・ 3
- ◇【柔道・空手道】武道の礼法・作法と受け・取りの攻防を段階的に学ぶ授業の展開
津市立久居中学校（三重県）・・・・・・・・・・ 5
- ◇【空手道・柔道】武道に積極的に取り組むとともに、武道の多様性や共通点を理解する授業展開
江津市立青陵中学校（島根県）・・・・・・・・・・ 7
- ◇【空手道・柔道】礼儀作法や相手を思いやる姿勢を空手道から柔道につなげることで、武道に真剣に取り組む、対人による攻撃（取り）・受けの段階的な授業の展開
宇部市立上宇部中学校（山口県）・・・・・・・・・・ 9
- ◇【柔道・空手道】武道の伝統的な考え方や基本動作を柔道と空手道を通じて段階的に学ぶ授業の展開
新居浜市立東中学校（愛媛県）・・・・・・・・・・ 11
- ◇【剣道・空手道】地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例
須賀川市立長沼中学校（福島県）・・・・・・・・・・ 13
- ◇【空手道・剣道】空手道の授業を武道の導入種目ととらえ、剣道での防具をつけての武道学習の深まりをもたせる授業の展開
喜多方市立第一中学校（福島県）・・・・・・・・・・ 15
- ◇【空手道・相撲】武道の伝統と文化への理解を深め、生涯スポーツにつながる多様な武道の授業実践
中土佐町立久礼中学校（高知県）・・・・・・・・・・ 17
- ◇【空手道・相撲】空手道の基本形・基本技の練習から相撲の基本動作の習得へつなげ武道の伝統的な考えを深める授業の展開
築上町立築城中学校（福岡県）・・・・・・・・・・ 19
- ◇【柔道・剣道・空手道】武道の種目を複数体験することにより、武道への関心を高め、主体的な活動を促す授業の展開
射水市立小杉南中学校（富山県）・・・・・・・・・・ 21

<複数種目の武道指導として【なぎなた】に取り組んだ実践>

- ◇【柔道・なぎなた】安全に楽しく武道の魅力を十分に体得し、興味・関心を高める学習の工夫
大仙市立南外中学校（秋田県）・・・・・・・・・・ 2 3
- ◇【なぎなた・柔道】複数種目に触れることで、武道に対する興味・関心を向上させる授業づくり
下関市立長府中学校（山口県）・・・・・・・・・・ 2 5
- ◇【柔道・なぎなた】柔道となぎなたを通して、武道特有の礼法や基本動作を学習することにより、日本の伝統文化の理解と安全で楽しい武道の授業の展開
鳴門市大麻中学校（徳島県）・・・・・・・・・・ 2 7
- ◇【なぎなた・柔道】なぎなたの礼法や足さばきを学ぶことで、柔道との共通点を気付かせる授業の展開
枕崎市立別府中学校（鹿児島県）・・・・・・・・・・ 2 9
- ◇【なぎなた・剣道】なぎなたと剣道の共通点や相違点を意識しながら、複数の武道を楽しむ実践例
館林市立多々良中学校（群馬県）・・・・・・・・・・ 3 1
- ◇【剣道・なぎなた】剣道となぎなたの基本動作の共通点への気づきと、基本的な対人技能の習得
彦根市立中央中学校（滋賀県）・・・・・・・・・・ 3 3
- ◇【剣道・なぎなた】剣道からなぎなたにつなげることで竹刀やなぎなたの操作方法、足さばきや体さばきを段階的に学ぶ授業の展開
有田川町立金屋中学校（和歌山県）・・・・・・・・・・ 3 5
- ◇【剣道・なぎなた】武道の相違点や共通点を見出し、武道のよさや奥深さを学ぶ授業の展開
佐賀県立香楠中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・ 3 7
- ◇【剣道・なぎなた】複数の種目から武道の関心・意欲を高める、体育担当教員と外部指導者が連携した授業実践例
日之影町立日之影中学校（宮崎県）・・・・・・・・・・ 3 9

<複数種目の武道指導で【弓道】に取り組んだ実践>

- ◇【弓道・柔道】武道における基本動作の重要性を理解させ、伝統的な考え方や作法の理解につなげる授業の展開
米沢市立第一中学校（山形県）・・・・・・・・・・ 4 1
- ◇【弓道・柔道】外部講師や地域施設を活用した「できた」を引き出す複数武道の実践例
中之条町立六合中学校（群馬県）・・・・・・・・・・ 4 3
- ◇【剣道・弓道】武道において、技を身に付けて試合で勝つことだけでなく、礼法や相手を尊重する態度を学ぶ授業の展開
鞍手町立鞍手中学校（福岡県）・・・・・・・・・・ 4 5
- ◇【相撲・弓道】武道の伝統と文化への理解を深め、生涯スポーツにつながる多様な武道の授業実践
須崎市立南中学校（高知県）・・・・・・・・・・ 4 7

<複数種目の武道指導で【合気道】に取り組んだ実践>

- ◇【柔道・合気道】柔道と合気道の伝統的な考え方や礼儀を重んじ、基本動作や基本となる技を行う柔道から合気道につなげ、武道の共通点について段階的に学ぶ授業の展開
千葉市立都賀中学校（千葉市）・・・・・・・・・・ 4 9
- ◇【剣道・合気道】異なる種目の中に、相手を尊重するという武道に共通の理念を学ぶ
上越市立浦川原中学校（新潟県）・・・・・・・・・・ 5 1
- ◇【合気道・相撲】発達段階や習熟度を踏まえた指導計画及び指導体制の構築
遠軽町立白滝中学校（北海道）・・・・・・・・・・ 5 3

<複数種目の武道指導で【少林寺拳法】に取り組んだ実践>

- ◇【少林寺拳法・柔道】二人組で行う演武練習で守者・攻者の息を合わせることから、柔道の取り・受けに繋げる授業展開
小松市立板津中学校（石川県）・・・・・・・・・・ 5 5
- ◇【少林寺拳法・柔道】少林寺拳法で学んだ武道の心得を柔道につなげることで、武道について段階的に学ぶ授業の展開
宝塚市立長尾中学校（兵庫県）・・・・・・・・・・ 5 7
- ◇【剣道・少林寺拳法】技のできばえ試合や基本修練により、攻防について段階的に学ぶ授業の展開
由利本荘市立鳥海中学校（秋田県）・・・・・・・・・・ 5 9
- ◇【少林寺拳法・剣道】突きや蹴りを用いる少林寺拳法から竹刀を用いる剣道につなげることで安全を意識した武道の授業の展開
紀北町立紀北中学校（三重県）・・・・・・・・・・ 6 1

<複数種目の武道指導で【銃剣道】に取り組んだ実践>

- ◇【柔道・銃剣道】武道の複数種目指導において外部指導者と連携し、武道に対する理解を深め、練習や試合を段階的に学ぶ授業の展開
小美玉市立小川南中学校（茨城県）・・・・・・・・・・ 6 3
- ◇【柔道・銃剣道】礼法を理解し、自他の安全に努めながら、授業に意欲的な姿勢で取り組み、互いの技能を高める 授業の展開
高島市立朽木中学校（滋賀県）・・・・・・・・・・ 6 5
- ◇【銃剣道・剣道】銃剣道から剣道をつなげることで、複数の武道に共通した動きを段階的に学ぶ授業の展開
南砺市立井口中学校（富山県）・・・・・・・・・・ 6 7
- ◇【相撲・銃剣道】基本動作と基本となる技について、段階的に学ぶ学習の展開
名寄市立名寄東中学校（北海道）・・・・・・・・・・ 6 9

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・空手道 武道種目の共通性に気付くとともに、対人技能を安全に行う授業の展開	網走市立呼人中学校（北海道） 電話番号 0152（48）3011 メールアドレス yobito@study.hs.plala.or.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 生徒に武道種目の共通性を気付かせることを通して、伝統的な考え方についての理解を深めさせる指導の充実を図る。
- 対人種目である武道において、生徒の安全を確保した指導の工夫を図る。

●複数種目指導モデル 第3学年（1学級10名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	柔道		空手道							
学習の流れ	挨拶・準備体操・体ほぐしの運動・用具の準備									
	受け身		オリエンテーション	立ち方じゃんけん						
	既習の技の復習		立ち方じゃんけん	突き・蹴り・受け						
			突き・蹴り・受け	約束組手				形		
			固め技の乱取り		縦割り活動			形		団体形
	整理運動・学習のまとめ・振り返り・次時の予告									

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 学習カードやタブレットの活用
学習内容や個人評価項目が記載された学習カードやタブレットを活用し、生徒が自身やグループの活動に見通しをもったり、振り返ったりすることがいつでもできるようにする。
- 用具を活用した指導
初めて空手道を経験する生徒が、突きや蹴りのイメージを持つことができるよう、風船を真上に突いたり、上から落下させた新聞紙を正面で素早く掴んだりする学習活動を設定する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 怪我を未然に防ぐ環境の整備
授業開始前にフロアーのモップがけによる異物の除去や、足先の怪我を防ぐことを目的とした靴を履いたままでの参加など、怪我を未然に防ぐ工夫をする。
- 対人練習での怪我を防ぐ工夫
約束組手の際に、手を伸ばしても相手に当たらない距離を確認したり、誤って当たってしまった時の衝撃緩和のために軍手を着用させたりするなどの工夫をする。

●授業の様子



【風船を用いた突きの練習】

突きのイメージが掴めない生徒が感覚を掴むとともに、楽しみながら行うことで空手道への関心を高められるようにした。

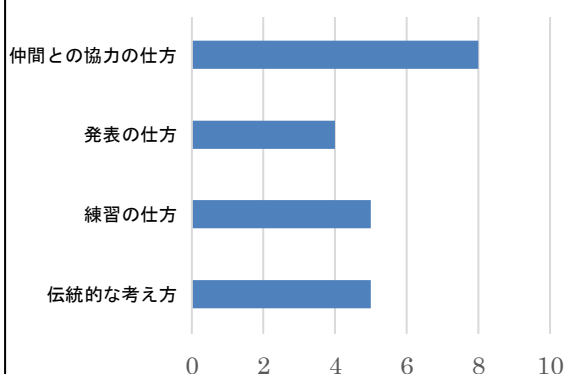


【軍手を用いた組手の練習】

約束組手の際に、誤って突きが当たってしまった場合の衝撃緩和のために軍手を着用させた。軍手の着用箇所を「受け」の箇所の目印とすることができるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

【柔道と空手道を行うことで理解が深まったこと】



【2つの武道をやってみて感じたこと（自由記述）】

- ・同じ武道でも体の使い方が全然違うと思った。
- ・どちらの武道も相手を敬うものと感じた。
- ・礼儀正しさや、相手への敬意を示す競技だと感じた。
- ・どちらも楽しくやるのが大切だと分かった。
- ・やってみると楽しかった。
- ・どちらも単純ではなく、奥が深いことが分かった。
- ・一見難しそうだったが、仲間と一緒にやることで、技術を高めながら楽しく行うことができた。

●成果と課題（○成果 ■課題）

- 第1・2学年で柔道を学習し、第3学年では柔道と空手道を学習する計画としたことにより、生徒が武道の共通事項に気付くとともに、武道の精神や日本古来の考え方について理解を深めることができた。
- 複数の武道種目を行うことで、多様な生徒の嗜好に対応でき、授業後のアンケートでは多くの生徒が武道を「楽しい」と回答した。
- 空手道を初めて学習する生徒が、スムーズに空手道のイメージを掴むことができる教材を立案することができた。
- 保健体育科の教員が空手道の専門家であるため、きめの細かい指導ができていますが、教員の異動がある場合は現在の指導を継続することが難しくなるため、誰もが指導できる単元の指導計画を継承する必要がある。
- 第3学年では、柔道2、空手道8の計10時間で指導を行ったが、柔道の学び直しの時間が十分ではなかったため、他の領域との時数を調整する必要がある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・柔道 外部講師を活用した、空手道と柔道による 複数種目の武道実践例	太田市立南中学校（群馬県） 電話番号 0276（38）0254 メールアドレス minami-j@ota.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 形の動きを仲間と合わせることを中心に学習を進める空手道と、相手と組み合うことを中心に学習を進める柔道を組み合わせることで、武道の多様な楽しみ方を実感できる単元計画の作成。
- 外部講師を活用した、効果的な指導をするための担当教師と外部講師の役割分担の工夫。
- 運動が苦手な生徒も主体的に学習を進めたい活動や、生徒の安全を確保するための工夫。
- 4時間という限られた時間内で、空手道の特性や面白さを実感できる単元計画の開発。

●複数種目指導モデル 第2学年（6学級227名）

種目	空手道	柔道
時間	主な学習内容	主な学習内容
1	・空手道の特徴や歴史・立ち方 ・基本動作	・受け身の練習（後ろ、横、前回り） ・固め技（けさ固め、横四方）
2	・基本動作の復習・移動の基本動作 ・基本形一	・受け身の練習 ・固め技（上四方、縦）
3	・基本形一（グループ別練習）	・受け身の練習 ・固め技の練習
4	・基本形一（グループ別発表） ・全員での基本形一演武	・受け身の練習 ・固め技（グループ練習）
5		・受け身の練習 ・固め技リーグ戦
6		・受け身の練習 ・固め技リーグ戦

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 外部講師等が動きを一斉に指導する場面と生徒同士が学び合いながら動きを身に付ける場面を単元の中にバランス良く計画する。
- 評価場で生徒同士が見合う場面を設定する。

2 主体的な学習や生徒の安全を確保するための工夫

- ジャンケンを取り入れた足さばきの練習や新聞紙割など、生徒の意欲を喚起するような活動を設定する。
- 生徒のけがを防止するために、広いスペースを確保できる体育館で授業を行ったり、体育館シューズを着用して活動を行ったりするなど、学習環境の工夫を行う。
- 単元末では男女それぞれが見合う発表会があることを伝え、学習の目的意識を持たせる。

●授業の様子



【生徒同士の学び合い】

外部講師による全体指導を踏まえ、学習ノートを活用して、生徒同士が動きを見合いながら基本動作の練習をした。



【笑顔あふれる新聞紙割】

新聞紙割では、笑顔の中にも真剣に取り組み、新聞紙を破ることができた喜びで、体育館中に歓声が響いた。

●生徒の意識、感想、変容など

- 空手道では、短い時間だったけど、グループで形を完成できて嬉しかった。また、新聞紙割なども経験できて楽しかった。
- 空手道と柔道を両方やってみて、武道にもいろいろなものがあることが分かった。「空手」が東京オリンピックでは行われるようなので、オリンピックで見てみたいと思った。
- 初めは難しそうだなと思っていたけれど、基本中の基本から教えてもらえたのでよかった。テレビで観る組手は痛そうだったけど、形というものもあるんだなと知ることができた。
- 基本形一を覚えるのは難しかったけれど、グループ練習で友だちが順番を教えてくれたり、先生が角度などを教えてくれたりしたので、なんとかできた。最後の発表会では、緊張したけれど、みんなでそろった動きができてよかった。また、気合いも大きな声で「えいっ」と言うことができた。

●成果と課題

<成果>

- 空手道と柔道の学習を通して、「礼に始まり 礼に終わる」などの共通点があることを生徒に実感させることができた。また、講師による授業を毎時間行うことで、生徒は本格的な武道に触れることができ、正しいやり方を身につけることに繋がった。
- 生徒のけがを防止するために広いスペースを確保できる体育館で授業を行ったり、体育館シューズを着用して活動を行ったりしたことで、安全に計画を進めることができた。
- 学習ノートに学習計画や形のイラスト・ポイント等を載せることにより、生徒が見通しをもって意欲的に活動することができた。
- 男女共習で行ったことにより、発表会の際には男子の力強さや女子のしなやかさなど、特徴に着目しながらお互いの形を見ることができた。

<課題>

- 空手道の指導は、専門の指導者がいないと指導を継続することが難しい。また、外部講師との打合せや授業の時間調整に時間がかかる。
- 空手道が4時間入ることにより、柔道の時数が少なくなってしまう。浅く広く学習できるのはよいが、柔道の学習の深まりがなくなってしまう。年間指導計画を作成する際に工夫が必要となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・空手道 武道の礼法・作法と受け・取りの攻防を段階的に学ぶ授業の展開	津市立久居中学校（三重県） 電話番号 059（255）2102 メールアドレス j2552102@res-edu.ed.jp
--	---

●実践研究のねらい

- 柔道から空手道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法・作法など武道の共通点に気付かせながら、技の指導では、受けと取りの攻防を展開する柔道から空手道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的に授業が行えるように教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第2学年（5学級166名）

平成30年度（1年次）に柔道、令和元年度（2年次）に空手道を実施

	1 年次								2 年次				
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	
種目	柔道								空手道				
学習の流れ	導入（挨拶、出席確認、健康観察、準備運動、伝統的な行動の仕方、本時の学習の見通し）												
	オリエンテーション（柔道）	基本動作の学習						技能テスト・学習のまとめ	オリエンテーション（空手道）	基本動作の学習			
		受け身の学習								上段受けの学習	中段受けの学習	下段受けの学習	
		固め技の学習			投げ技の学習								
		対人的技能の学習								組手の学習			
							技能テスト						
	整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、挨拶）												

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の学習意欲を高めるための教具教材の充実
技法を習得する際に生徒の学習意欲を高めるための教具教材を使用する学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
外部指導者より安全な運動の仕方について説明や模範を受ける場を設ける。
- 攻防を安全に楽しめるための生徒同士の理解
受けと取りの役割を生徒が理解し、双方が攻防を安全に楽しむための約束事を提示する。

●授業の様子



【オリエンテーション】

柔道・空手道の特性や成り立ち、安全面の配慮点などについて、外部指導者から指導することにより、武道への関心を高められるようにした。



【新聞紙を使って突きの練習】

洗練された技に近づけ、実際に体験できるように新聞紙を使用した。また、新聞紙1枚から技の難易度も変えられるようにも工夫した。

●生徒の意識、感想、変容など

1 外部指導者の指導により空手道

の技能が高まりましたか。



2 外部指導者の指導により空手

道の知識は得られましたか。



立ちの位置とほぼ同じだった。能多翁にはたて人形が一つあった。
身は炭きし袴羽織のたから、新しい事きたて人形へ着せた。
髪身に白紙の袴と袴羽織を着た。前髪は黒い髪に似せた。身の内裏は襦袢と袴。
white, red, white, black, blue, yellow, green, etc.
新聞かミットをさっけてやるのがたのしかった。新調の袴羽織のたから、そして足
袋置がすくなく履きたいせうがあった。アトがとうとう来た。ミットでやるの
はよくないからやめた。

●成果と課題

○柔道から空手道につなげた学習は、礼法や作法などに共通する点を見出すことができ、その点に時間を割く必要がなくなることですぐに技能習得の授業を行えた。空手道の意識調査の結果から、大半の生徒が知識を得られ、技能も高まったと感じていた。これは、少ない授業数ながらも柔道の時間に学習したことを活かしながら空手道の授業を行うことができたと考えられる。しかしながら、技能に関しては、高まらなかったと感じている生徒もいる。技法を習得するために生徒の学習意欲を高めるための教具教材開発や、外部指導者の説明や模範を行う際の内容について再構築が必要となった。

○武道の指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。

○1年次で柔道8時間、2年次に空手道4時間を加えた単元計画としたが、空手道の時数も8時間で計画することができれば、受け取りの攻防だけでなく、技の正しい理解と習得したことを発表する「演武」を行うことができると感じた。今後、武道は攻防だけでなく、仲間と協同して取り組むことができる可能性を示唆できた。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・柔道 武道に積極的に取り組むとともに、武道の多様性や共通点を理解する授業展開	江津市立青陵中学校（島根県） 電話番号 0855（54）3700 メールアドレス seiryu-chu@gotsu.ed.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするなどや、健康・安全に留意することができるようにする。
- 柔道とともに空手道に取り組むことによって、武道の多様性や武道すべてに通じる考え方や行動の仕方があることを理解させ、我が国固有の文化の良さに触れさせる。
- 形は武道特有の鍛錬方法であり、形についての学習を通して、空手道の技や動きを安全に習得するとともに、それぞれの動きの意味を理解し、相手がいることを想定して表現できるようにする。また、団体形に取り組むことで仲間と協力したり、学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようすることができるようにする。

●複数種目指導モデル 第2学年（3学級81名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
種目	空手道						柔道								
学習の流れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）														
	オリエンテーション	基本（突き・蹴り）				オリエンテーション	準備運動・受け身（後ろ受け身、横受け身）								
		形の学習	グループ学習	団体形発表	固め技の学習 簡易試合				投げ技の学習			得意技発表			
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）															

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、師範演技等で本物の迫力を感じさせる。
- 学習課題の吟味
基本の形では簡単すぎるため、学ぶ意欲の持続が難しいと考え、難易度が高めの形を教材として選択する。また、団体形に取り組むことで、学習が個からグループに発展できるようにする。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
形や技を行うときは自分の周囲に気を配り、安全な距離を保ちながら活動するよう指導する。

●授業の様子



【基本練習（中段正拳突き）】
基本的な突きや蹴りの習得



【全体で形の動きの確認】
動きの意味もあわせて指導



【グループで団体形の練習】
お互いに助言しながら動きをあわせる



【グループで振り返り】
自分たちの課題を話し合い、次時の活動に活かす

●生徒の意識、感想、変容など

- 最初に動画や先生のやっている姿を見て、難しそうと思っていて、やってみると手の向き、足の向きやそろえるというのが難しくて、でも覚えていくうちに楽しくなりました。
- 空手道の形の一つ覚えることができて、これはめったにない機会だと思うのでうれしかった。しかし、実際に誰かと組んでやった柔道の方が楽しかったなと思った。
- 最初はやっぱりやりたくなかったし、難しかったのもあったけど、友達が僕に教えてくれたおかげで本番では成功できました。どの競技も人の支えが必要なんだなと思いました。
- 空手道は一部の人しかすることのできない特別なものと思っていたけど、私にもできたし、楽しかったので良いものなんだなと思いました。
- 空手道はちゃんと相手がいることを想定していることなど奥が深いなと思った。
- 一つ一つの動きに意味があって、それを聞きながらやるのが面白かった。

●成果と課題

- 空手道の形は身体的な接触がないため、男女共習で行うことができる武道であり、男女で行うことでグループでの活発な話し合い活動をもつことができた。また、形を覚えることが苦手な生徒に、男女関係なくグループの仲間が教える姿が多く見られた。
- 実際に体験することで空手道のイメージがプラスになった生徒が多く、柔道や空手道以外の武道に対しても体験してみたいと答える生徒が多かった。
- 形の指導は専門性が求められるため、経験者でなければ困難であることが課題である。対して、組手の技は突きや蹴りなど一つ一つの動きは簡単なもので、柔道の約束練習のように出す技が決まっている約束組手であれば、安全に取り組めると考える。継続して複数の武道を行うためには、専門家でなくても指導できる単元計画を作成する必要があると考える。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・柔道 礼儀作法や相手を思いやる姿勢を空手道から柔道につなげることで、武道に真剣に取り組み、対人による攻撃（取り）・受けの段階的な授業の展開	宇部市立上宇部中学校（山口県） 電話番号 0836（31）1369 メールアドレス kuj@ube-ygc.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 空手道から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼儀作法や対人技能などの基本動作は共通点に気付かせながら、技の指導では、攻撃と受けに明確な約束がある空手道から、攻防を展開する柔道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 全学年（15学級461名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
種目	オリエンテーション (空手道)	空手道		柔道										
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）												
		準備運動				準備運動、基本動作と受け身の練習)							学習のまとめ	
		基本動作の学習		基本動作の学習		固め技の学習					投げ技の学習			
		(突き)	対人受け	受け身の学習										
		整理（整理運動、本時の振り返り、あいさつ）												

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
畳の上で受け身や対人で行う時はスペースを決めて場所を確保して安全に取り組める工夫をする。

●授業の様子



【オリエンテーション】

空手道の特性や成り立ち、日本で活躍する選手などについて、外部指導者から指導することにより、武道への関心を高められた。

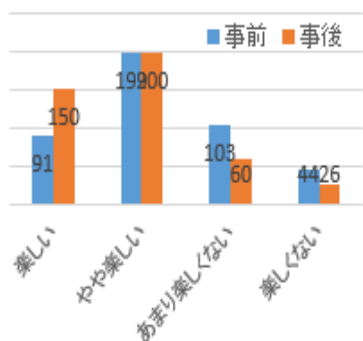


【対人的技能の練習】

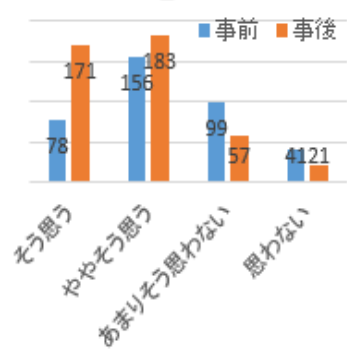
学習する対人的技能は2つとし、繰り返し取り組むことで、空手道の特性を十分に味わえた。

●生徒の意識、感想、変容など

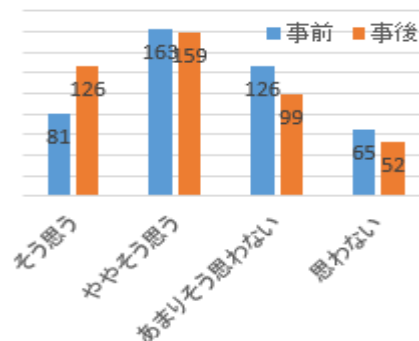
1 武道の授業は楽しいですか。



2 武道の複数種目の実施により我が国固有の伝統と文化により一層ふれることができましたか。



3 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。



●成果と課題

- 空手道から柔道につなげた学習は、礼儀作法の基本的な動作を身に付けることにより、柔道の授業でも「礼」に始まり「礼」に終わる態度を自然と行えるようになった。
- 「攻撃」や「受け」などに共通する点を見出すことができ、技能の習得についても、身に付けやすかったと感じる生徒が多くいた。意識調査の結果から、大半の生徒が複数武道の学習を肯定的に捉えているが、そうでない生徒も一定数いるため、生徒の状況によって、個に応じた支援が講じられるよう指導方法を更に工夫していく必要がある。
- 空手道においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。
- これまでの柔道10時間の指導計画に空手道3時間を加えて単元計画としたが、空手道は、あと2時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は課題となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・空手道 武道の伝統的な考え方や基本動作を柔道と空手道を通じて段階的に学ぶ授業の展開	新居浜市立東中学校（愛媛県） 電話番号 0897-37-1294 メールアドレス niie-jof@esnet.ed.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 柔道と空手道の複数種目の武道指導を計画し、足さばきや相手を尊重して練習や試合を行う共通点に気付かせながら、基本動作と基本となる技を確実に身に付け、上級学年に向けて段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第1学年（4学級129名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
種目	オリエンテーション（柔道・空手）	柔道									空手		
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）											
		準備運動			準備運動、基本動作と受け身の練習						基本動作の学習	学習のまとめ	
		基本動作の学習											
		受け身の学習			固め技の学習				固め技を用いて簡易な攻防を展開する学習				
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）													

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
基本的な動きの定着を図りながら、生徒の実態に合わせて、学習を段階的に進めることができるよう、指導計画の見直しを行う。
- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
- 単元を通した受け身の学習
柔道・空手道を通して毎時間練習するとともに、畳上にマットを敷いて練習する場を設けるなど、安全に取り組める工夫をする。

●授業の様子



【演舞】

空手道の特性や成り立ち、安全面の配慮点などについて、外部指導者から説明を受け、実際に空手道の動きを見ることで、空手道への関心を高めることができた。

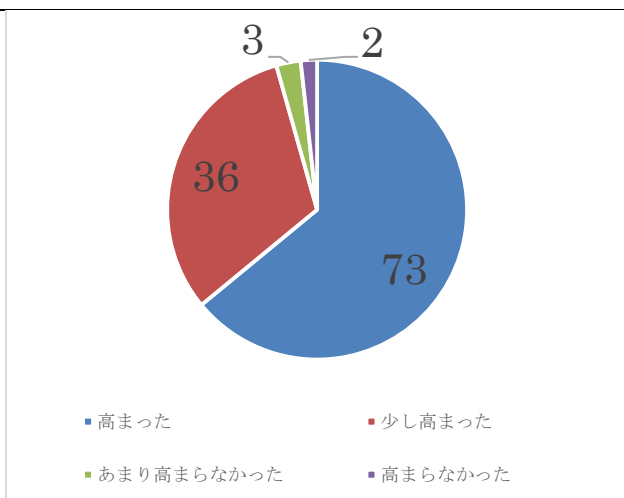


【形の練習】

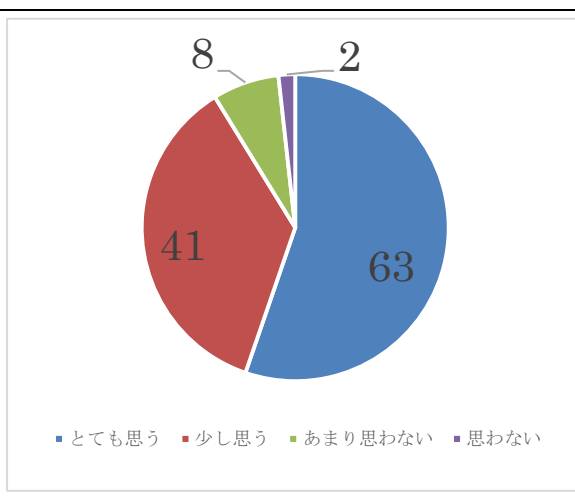
学習する形は主に2つとし、外部指導者の動きを見ながら繰り返し取り組むことで、空手道の形の技能や特性を十分に味わえるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

1 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。(114名実施)



2 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。(114名実施)



●成果と課題

- 柔道と空手道の複数種目行う学習は、「足さばき」や「礼法」などに共通する点を見出すことができ、技能の習得についても、身に付けやすかったと感じる生徒が多くいた。意識調査の結果から、大半の生徒が複数武道の学習を肯定的に捉えており、授業に意欲的に参加していた。
- 特に、空手道の指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業経験の多い教員が少ない。教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き、検討していく。
- これまでの柔道10時間の指導計画に空手道2時間を加えての単元計画としたが、空手道は、あと3時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は課題となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・空手道 地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例	須賀川市立長沼中学校（福島県） 電話番号 0248（67）3155 メールアドレス naganuma-j@fcs.ed.jp
--	---

●実践研究のねらい

- 現行の専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

●複数種目指導モデル 第2学年（1学級36名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
種目	剣道							空手道						
学習の流れ	オリエンテーション (剣道)	導入（あいさつ・健康観察、伝統的な行動の仕方、本時の学習の見通し）							オリエンテーション (空手道)	導入（あいさつ・健康観察、伝統的な行動の仕方、本時の学習の見通し）				
		準備運動								準備運動				
		礼法・構え	基本動作の学習 (足さばき、素振り)	基本となる技を習得する学習 (跳躍面、竹刀打ち等)			剣道学習のまとめ	(基本動作の学習 (立ち方、突き、蹴り))		基本動作の学習			空手道学習のまとめ	
				簡易な攻防をする学習 (切り返し面、打ち込み練習等)						上段あげ受け 下段受け	基本形	約束組手		
整理（整理運動・健康観察、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							整理（整理運動・健康観察、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

剣道と空手道のそれぞれの指導者と保健体育科教師が、単元が始まる前や授業前に、生徒の習熟度合いや授業内容、指導目標などについて指導要領をふまえながら共通理解を図った。また、授業では、地域の指導者がT1として技能のポイントや注意点などの全体指導を、保健体育教師がT2として生徒にアドバイスをするなどの個別指導を行った。

- 具体的な取組内容・方法、取組を進める上でのT1・T2の役割分担

地域の指導者をT1とすることで、より専門的な内容を的確に指導することができた。それにより、普段とは違った雰囲気、武道ならではの緊張感がある授業を行うことができた。また、保健体育科教師はT2として、つまづきのある生徒への言葉かけ、支援にあたった。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 竹刀の取り扱いや注意事項について説明し、毎時間に安全確認を行った。（剣道）
- 生徒と安全に活動するためにルールを確認し、T1が全体指導、T2が個別指導を行った。
- ペア活動の際は体格や技能を考慮した組合せにし、ペア同士の間隔を確保して活動に取り組ませた。
- 特別な支援を要する生徒には支援員がつき、個別の安全対策を徹底した。

●授業の様子



剣道【地域の指導者による一斉指導】
普段の授業よりも緊張感のある授業



剣道【様々な練習方法】
防具を使用しない打ち込み練習

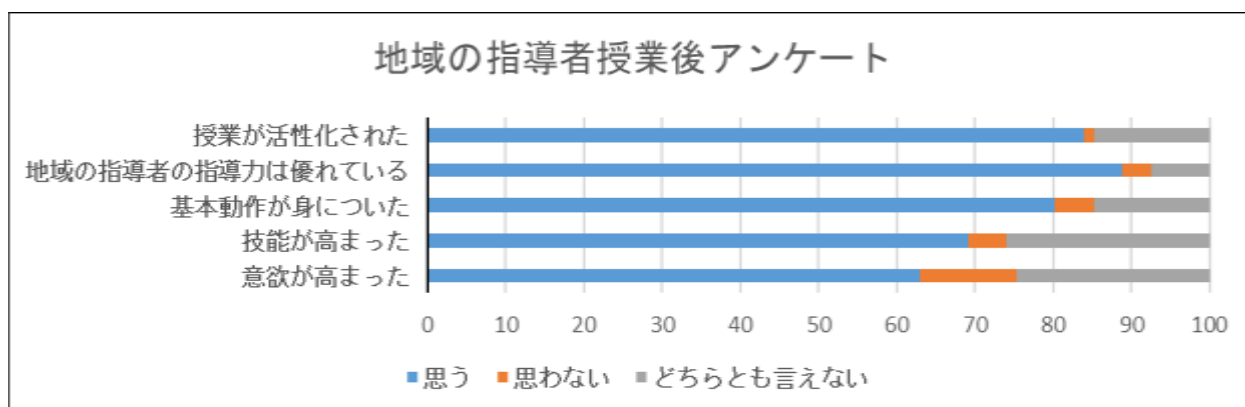


空手道【地域の指導者による一斉指導】
相互に技を確認しながらの練習



空手道【基本形の団体発表】
演技者、審判になりきった発表

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題

- 地域の指導者と連携しながら行った授業は、競技の経験や指導歴が浅い教師にとって大変有効であった。
- 生徒に武道の伝統や楽しさの本質を味わわせたり、技能を習得させることができたことの他に、専門的な立場からの安全面の配慮やTTでの指導体制による個々への対応も十分に行うことができた。
- 今後は、さらに地域の指導者と連携することで、生徒たちの主体性がより発揮され、生徒間での深い学びが実現する授業づくりを展開していきたい。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・剣道 空手道の授業を武道の導入種目ととらえ、剣道での防具をつけての武道学習の深まりをもたせる授業の展開	喜多方市立第一中学校（福島県） 電話番号 0241（22）0140 メールアドレス kitakata1-j@fcs.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 空手道（1年生）から剣道（2年生）へとつながる武道指導計画を作成することで、生徒の学習意欲の向上を図る。
- 空手道と剣道において、武道における心構えや基本姿勢、相手の間合いなどの共通点を明確にし、指導内容を精選することで、確実に技の理解や習得をさせる。
- 外部指導者の専門的な知見を生かし、安全を確保した指導について研究し、その後の教員による指導体制の確立を図る。

●複数種目指導モデル 第1学年（3学級87名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	オリエンテーション	空手道						
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）						
		準備運動						学習のまとめ
		基本動作の学習			学習のまとめ	基本動作の学習		
		受けの学習				受けの学習		
		対人的技能の学習						
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）								

●複数種目指導モデル 第2学年（3学級88名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	
種目	オリエンテーション	剣道							
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）							
		準備運動							学習のまとめ
		基本打突の学習				学習のまとめ	基本打突の学習		
		段階的な学習					対人的技能の学習		
		対人的技能の学習							
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）									

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容を外部指導者と協議の上精選し、生徒が達成感を味わうことができる授業を展開する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 各授業の導入時に、生徒に外部講師から本時で扱う技の注意点について演示しながら示すことで、安全に運動に取り組む意識を養う。

●授業の様子



【模範演技】

実際に生徒からの突きを受け、技能のポイントを意識させ、外部指導者からの指導により、武道の関心を高めた。

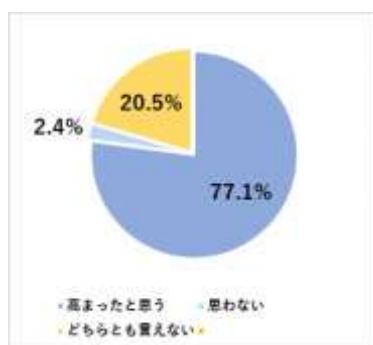


【対人技能の説明】

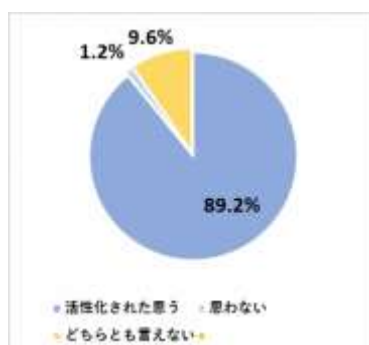
対人技能において、安全面への配慮を第一に考え、遠い間合いにより、基本動作の確認を行った。

●生徒の意識、感想、変容など

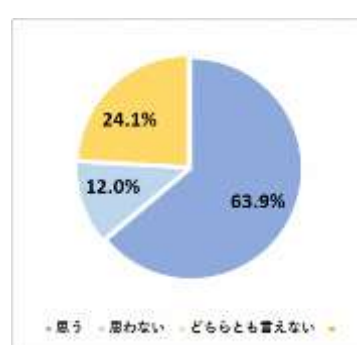
1 武道の専門的な知識は高まったと思いますか。



2 担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。



3 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。



●成果と課題

- 空手道（1年生）から剣道（2年生）につながる2年間の系統性のある指導計画を作成し、学習に取り組ませた。空手道の対人的技能には剣道にもつながる技能が多く、剣道の学習の際には、生徒の技の理解や習得の深まりが期待できる。
- 外部指導者の専門的な知見を生かし指導内容を精選したこと、および外部指導者による手本を見せる等具体的な指導したことで、「武道の専門的な知識が高まった」と感じる生徒が77.1%、「多くの武道種目を学習したい」と感じる生徒が63.9%と高い数値を示した。
- 専門性が高い外部指導者から直接指導を受ける機会は、教員にとっても、具体的な指導方法や、安全に学習させる視点等大変有意義である。今後、武道指導における共通する重要事項の精選を更に図るとともに、教員自らが指導する際の指導について引き続き検討することが必要となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・相撲 武道の伝統と文化への理解を深め、生涯スポーツにつながる多様な武道の授業実践	中土佐町立久礼中学校（高知県） 電話番号 0889（52）2811 メールアドレス kure-j@town.nakatosa.lg.jp
--	---

●実践研究のねらい

- 新学習指導要領において示された我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、武道授業における複数種目の実践を行うなど、多様な武道種目に触れる授業の実践研究を行い、武道指導の充実を図る。
- 武道の伝統と文化への理解を深める空手道及び相撲の授業を実践する。
- 授業協力者を活用して、より深い技術指導を行う授業を実践する。

●複数種目指導モデル

空手道 第1学年（32名） 相撲 第2学年（33名）

学年	1 年								2 年					
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6
種目	空手道								相撲					
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）												
		準備運動												
		基本動作 （立ち方・足さばき）	基本動作 （側方転回）	基本動作		基本形一	演武発表会	オリエンテーション	基本となる技 （押し）	受け身		基本（おっつけ） 基本となる技	課題練習（押し出し・寄り切り・出し投げ）	団体戦
				基本となる技						基本となる技 （投げ技）				
		対人的技能 （平行立ちでの突き・上段あげ受け・下段受け）		対人的技能	基本となる技						課題練習			
	礼法		約束練習							課題練習				
	立ち方			整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							基本動作			

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 授業協力者（県空手道連盟）と連携して、指導計画を作成した。
- 授業内容については、授業協力者と事前に打ち合わせを行い、毎時間前にも確認をした。
- 空手道の技能目標を、集団による「基本形一（演武）」とした。
- 技のポイントをつかむ手立てとして、動画の視聴等、ICTを効果的に活用した。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 授業前に健康状態の確認を徹底して行う。
- 空手道の特性に応じて、場の工夫（活動の場、生徒同士の間隔等）を行う。
- 準備運動や補強運動を十分に行う。

●授業の様子



【基本技能の習得】

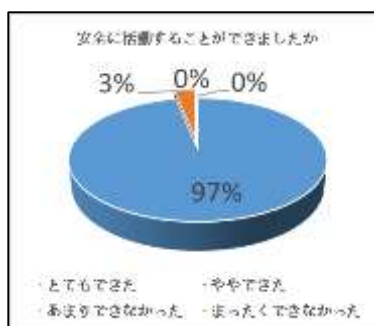
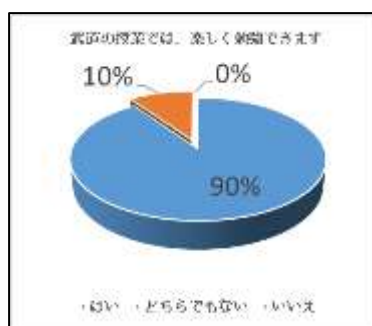
授業協力者の手本をもとに、空手道の基本技能（突き）の習得を目指す。



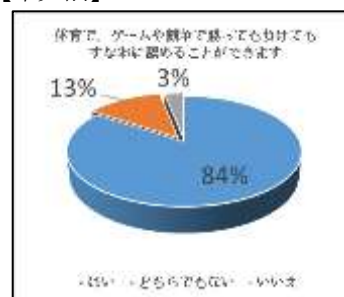
【安全性の確保】

生徒同士の距離感をしっかりと意識づけるために、新聞紙を突きで破る練習を行った。

●生徒の意識、感想、変容など



【単元前】



【単元後】



●成果と課題

- 今まで体験することのなかった空手道を相撲と合わせて授業で学ぶことで、生徒自身の武道へのマイナスイメージを払拭することができ、親しみやすいものであるという意識につながった。
- 授業協力者による実技を見ることで関心が高まり、東京オリンピック・パラリンピックの正式種目である空手道への興味につながる授業が展開できた。
- すべての生徒が達成感を味わうことができる「基本形一」を単元のゴールに設定することで、グループの中での関わり、意欲が高まった。
- 空手道と相撲の2種目で礼法の指導を重点的に行ったため、礼や相手への敬意を持ちながら運動に取り組む姿勢につながり、日常生活の中でも心のこもった礼を大切にしていきたいという感想が聞かれた。
- 授業の中で生徒に考えさせたいポイントや授業協力者の指導場面の整理を行う必要があった。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

空手道・相撲 空手道の基本形・基本技の練習から相撲の基本動作の習得へつなげ武道の伝統的な考えを深める授業の展開	築上町立築城中学校（福岡県） 電話番号 0930（52）0019 メールアドレス tsuiki-jhs@sge.bbq.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 段階的な指導により、生徒の武道に対する挑戦意識の向上を目指す。
- 空手道から相撲へとつながる複数種目の武道指導を計画し、基本動作の共通点に気付かせながら、「道」としての武道の考え方にも言及し、指導の充実を図る。
- 空手道・相撲の歴史や特性及び礼法を学ぶことを通して、武道の伝統的な考え方を理解できるようにする。
- 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進を図り、試合形式で練習を行うことで、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

●複数種目指導モデル 第2学年（2学級42名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
種目	空 手										相撲			
学習の流れ	オリエンテーション（空手・相撲）													
	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）													
	準備運動、基本動作													
	基本技の練習、基本型の取得							発表	技能の学習、試合に向けた練習		学習のまとめ（発表）	基本技の練習		学習のまとめ（押し相撲）
	・プレゼンテーションを使って、分かりやすくした。											攻守を決め、「押し」「受け」の練習		
	・地域指導者の実演によって技を見て学べるように工夫した。													
	・学習ノートにより振り返りをさせ、学びを確実なものにさせるよう工夫した。								・地域指導者の実演による臨場感ある指導の工夫を図った。			対人的技能の練習		
	・クラス対抗（3班の対抗戦）の試合形式を取り入れることによって、運動有能感が高まるよう工夫した。													
	・iPadを活用し、お互いの型を確認し、その後の練習にいかした。													
整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）														

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会を設置し、毎回授業実施後に、地域の指導者と今後の指導の方向性を検討する。
- ICTの活用、地域指導者の実演によって技を見て学べるように工夫する。また、学習ノートにより振り返りをさせ、学びを確実なものにする。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 基本形の習得を目的とし、集団形の試合形式を行う。空手道の組手は、手にタオルを巻いて行う。

●授業の様子



【技の基本動作】

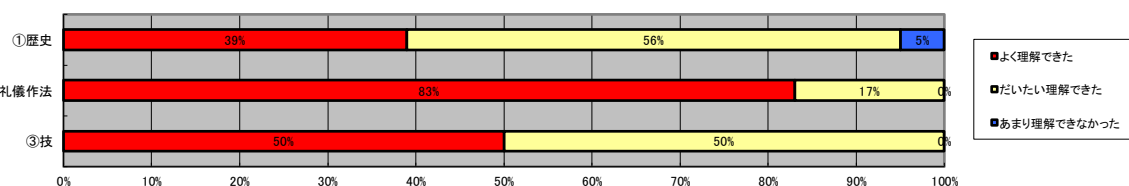
地域指導者の指導のもと、組手主体で練習し、お互いの様相を確認することで、自他共に伸長する態度の育成できるようにした。



【自己評価カード】

授業の振り返りで、自己評価、他者評価を取り入れることで、自分の課題を確認し、次時の目標を明確にすることができるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など



- 授業前は、「戦う、痛い、怖い」といったイメージをもっている生徒も多かったが、授業を終えての感想では、すべての生徒が楽しかったと答えた。理由は、「新鮮だった。礼法、相手を敬うこと、チームの団結力の大切さが学べた。上手くなるたびに達成感があった。空手道はカッコいいので、それができたこと、みんなと教え合いをすることができるようになったことや形で3人が1つになったとき、とてもうれしかった。ふだん、本音を言えない人とも意見を言えたのでよかった。」などがあつた。
- 生徒一人一人は真剣に取り組んでおり、発表会での出来栄もよく、確実に技能を習得できていた。昨年度のアンケート結果から各項目の習得率を比較すると、どの項目も上がっているため、一人一人に対してより細やかな指導ができたと思われる。

●成果と課題

- 空手道は、2時間続きで効率よく丁寧に授業展開できた。技を基本形に必要なものに絞り、的確に分かりやすくしたことで、初心者にもかかわらず、技能の習得率が非常に高く、興味関心も深まった。組手を取り入れたことで形の連動性を更に理解させることができた。
- クラス対抗の試合形式を取り入れたことで、仲間と協力することの大切さ、頑張ればできるという運動有能感が非常に高まり、タブレットの活用も効果的であった。もう少しレベルを上げた基本形も教えてほしいとの要望もあり、次年度の計画に組み入れたい。
- 空手道の指導においては、外部指導者の存在は大変大きい。外部指導者との役割分担や連携をさらに明確にした指導計画について検討していく必要がある。また、複数種目の指導となると、授業時間の配分の面から、安全面を第一とした、より一層の効率的・効果的な指導の工夫が求められる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・剣道・空手道 武道の種目を複数体験することにより、武道への関心を高め、主体的な活動を促す授業の展開	射水市立小杉南中学校（富山県） 電話番号 0766（56）5077 メールアドレス kosuginami-jhs@tym.ed.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 空手道や柔道、剣道を体験することで、武道に共通する伝統的な考え方や行動の仕方について理解するとともに武道のよさを感じることができるようにし、生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成を図る。
- 指導内容の精選や外部指導者と教師の効果的な役割分担を検討し、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。
- 相手の動きに応じて体をさばいたり、グループで空手道の集団演武に挑戦したりすることで、仲間と協力しながら活動することのよさや面白さを感じられるような授業の在り方を模索する。

●複数種目指導モデル 第2学年（3学級 113名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	武道（柔道・剣道選択）								空手道	
学習の流れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）									
	準備運動		準備運動、基本動作と受け身の練習						オリエンテーション	準備運動、基本動作の確認
	基本動作、礼法等の学習									
	受け身の学習		固め技の学習	固め技の学習		基本動作、礼法等の学習	基本技、基本形の学習			
				投げ技の学習						
	整理（本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）									

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 段階的な指導過程の工夫
受け身や体さばき等の武道特有の動きを身に付けられるよう段階を踏んだ指導を充実させる。
- 武道のよさを実感する場の設定
複数武道の体験を振り返る場を設定し、武道に共通する考え方やよさを実感することができるようにする。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- ペア・グループ編成の工夫
体格差を考慮した生徒同士で活動することで、安全に取り組めるようにする。
- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者の方から安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。

●授業の様子

		
【オリエンテーション】 空手道の歴史や特性、魅力等について外部指導者から指導を受けることで武道への関心を高められるようにした。	【基本動作の確認】 空手道の基本となる「突き」や「受け」のポイントを確認し、段階的に指導を受けた。	【基本形の集団演武】 小集団で基本形に取り組むことで、学び合い・教え合いができるよう工夫した。

●生徒の意識、感想、変容など

1 2種目の武道（空手道と剣道または柔道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2 2種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方（礼法等）への理解は深まりましたか。	3 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。
		

●成果と課題

- アンケートの結果より、複数種目の武道を学ぶことで日本の伝統文化に親しむことができたと言える。今年は東京でオリンピックが行われることもあり、生涯スポーツの視点からも意義のある体験となった。
- 武道の指導において、伝統的な礼儀や作法等の専門性が高い外部指導者の存在は、大変重要である。武道は攻撃をする手段ではなく自分の身を守る手段であり、相手を敬い尊重したりする気持ちをもつことが大切であるということが、生徒の心に響いた。生徒に正確な内容を伝えるために担当教諭が教材研究を進めるとともに、外部指導者と担当教諭との役割分担や連携を明確にした指導計画について引き続き考えていく必要がある。
- 今年度は柔道または剣道8時間、空手道2時間という単元計画にしたが、より内容を充実させていくためには授業時数の確保が必要である。武道の単元を男女共習で行うことで、生徒同士の関わりを広げることに繋がった。来年度のカリキュラム編成につなげていきたい。
- 相手の動きに応じて体をさばいたりグループで集団演武に挑戦したりすることで、生徒が主体的に学び合う姿が見られた。
- 事前研修会を実施することで、担当教諭が見通しをもって活動することができた。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・なぎなた 安全に楽しく武道の魅力を十分に体得し、興味・関心を高める学習の工夫	大仙市立南外中学校（秋田県） 電話番号 0187（73）1231 メールアドレス na-nancyu@edu.city.daisen.akita.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 柔道からなぎなたへとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法や構え、自然体などの共通点や違いに気付かせ、それぞれの特性に丁寧に触れさせる。
- 外部指導者の専門性を十分に生かし、限られた時間の中でなぎなたへの興味、関心を高めることができるよう、楽しさを感じる指導を目指す。
- 武道指導を通して、日本の伝統的な行動様式を身に付けるとともに、それぞれの種目の技の魅力に触れさせながら、安全を確保した指導体制の確立を目指す。

●複数種目指導モデル 第3学年（1学級17名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
種目	柔道						なぎなた				
学習の流れ	オリエンテーション（柔道）	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）									
		準備運動					オリエンテーション（なぎなた）	準備運動 なぎなた慣れ		準備運動 なぎなた慣れ	
		受け身の学習	固め技の学習	基本動作の 学習		学習の まとめ		構えの確認 基本打突（すね）			
				投げ技の 学習				すね打ち 実践練習			
		受け身の学習	固め技の学習					中段の構え 八相の構え		指導者の演示	
								基本打突 （面）			
	整理（本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）					整理（本学習の振り返り、あいさつ）					

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 外部指導者との十分な打合わせの実施
- 生徒になぎなたとのよい出会いに向けたオリエンテーションの実施

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 礼法を重んじ、活動前後に静の時間を確実に確保する。
- 技の正確さを大切に、一つ一つの技の習得に十分な時間をかける。
- 柔道においては、「受」「取」の約束の徹底をし、なぎなたにおいては、2.2mのなぎなたを体感し、周囲への危険がないよう扱い方を確認しながら体づくり運動を実施

●授業の様子



【対人的技能の練習】

中段の構え→振り上げ→振り下ろしの練習後、生徒に面打ちを实践させた。



【すね打ちの实践練習】

カラーコーンに防具を装着し、八相の構え→側面打ち。カラーコーンを動かさずに行う方法をグループで考えながら实践練習をした。

●生徒の意識、感想、変容など

1 武道の授業は好きですか。	2 なぎなたの授業は、楽しかったですか。	3 2種目の武道を学習することについてどのように思いましたか。
11.8 % 23.5 % 64.7 % 好き やや好き やや嫌い	0.0 % 0.0 % 100.0 % 楽しかった やや楽しかった やや楽しなかった	17.6 % 29.4 % 52.9 % 貴重な経験ができた 礼法が深まった 専門の先生から学べた。

●成果と課題

- 柔道からなぎなたにつなげた学習は、礼法、自然体、構えなどの共通点や相違点を見いだすことができ、技能の習得もスムーズであった。
- 2,2mのなぎなたを使用するなど、初めて経験する「なぎなた」への興味・関心が大変大きく、反応も大変よかった。
- 外部指導者の専門性が高く、示範をしていただいたり、防具を着けて演示していただいたり、より深くなぎなたを知る機会にもなった。
- 柔道・なぎなたの技能習得の面では、時数を増やす必要性も考えられるが、生徒の興味、関心を高め、豊かな経験を体得することができるよい取組だった。
- なぎなたの指導を継続していくことを希望したいが、指導者の確保が困難になることが心配される。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

なぎなた・柔道 複数種目に触れることで、武道に対するの 興味・関心を向上させる授業づくり	下関市立長府中学校（山口県） 電話番号 083（246）2157 メールアドレス chofu-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 地域スポーツ指導者を活用することで、生徒がなぎなたと柔道に関する知識や技能を学ぶとともに地域の特色・人材を生かし、伝統的に親しまれてきたなぎなた文化の伝承を図る。
- 地域スポーツ指導者と連携して授業を行うことで、保健体育教諭の専門的な知識や技能の習得による指導力の向上を図る。

●複数種目指導モデル 第2学年（5学級155名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
種目	なぎなた										種目	柔道											
学習の流れ	オ（なぎなた・柔道） オリエンテーション	導入（挨拶、ストレッチ体操、補強運動）										学習の流れ	導入（挨拶、健康観察、本時のめあての確認）										学習のまとめ
		本時のめあて確認（学習の見通し）											準備運動		準備運動、補強運動、受け身の練習								
		礼法指導 （なぎなたに左座右起）	基本の構え	基本の構え 体さばき	基本の構え		対人練習	打ち返し	受け身の学習 （前・後・横・前方回転）		固め技の学習 （袈裟・四方固め）		投げ技の学習 （体落とし・ひざ車・支鉤込足・大腰）										
					対人練習	打ち返し			対人的技能の学習 （自然体・自護体・組み方・体さばき・進退動作）														
			基本の構え	対人練習			打ち返し		対人的技能の学習 （自然体・自護体・組み方・体さばき・進退動作）														
					整理運動・本時の振り返り・次時の連絡・挨拶										整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、挨拶）								

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 1時間目に2学年全体でオリエンテーションを行った。なぎなたでは、面・小手・胴・脛の4つの打突技を実演した。柔道では3人の師範が技の一つひとつ実演を交えながら丁寧に説明した。実演を行うことで生徒の関心を高めた。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 本事業が始まる前に、地域スポーツ指導者の方と不備はないか点検を行った。
- 毎時間、なぎなたを扱う前に「人の後ろに立っていないか」「左右の距離は十分か」等各自で確認をさせた。また、地域スポーツ指導者と教員とが連携をして2人態勢で安全確保に当たった。
- 服装の工夫としてジャージ上下を着用させ、なぎなたや畳が直接肌に当たらないようにした。

●授業の様子



【オリエンテーション】

体育館でなぎなた・柔道の実演を見学。なぎなた・柔道の特性や歴史などについて、地域スポーツ指導者から直接話を聞くことにより、武道への関心を高められるようにした。

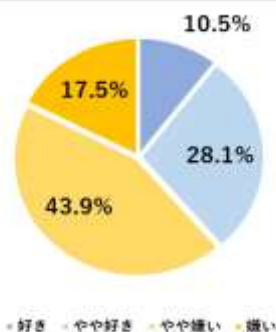


【地域指導者と対人練習】

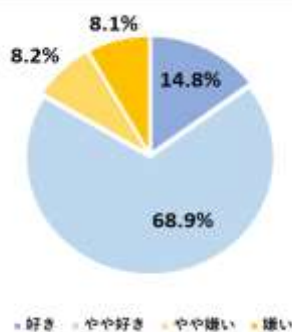
地域スポーツ指導者と対人練習（打ち返し）をし、アドバイスをもらう様子。

●生徒の意識、感想

○武道をすることは好きですか。
(なぎなた事前アンケート結果)



○武道をすることは好きですか。
(なぎなた事後アンケート結果)



○今後も機会があれば、多くの武道種目を体験したいと思いますか。



●成果と課題

- 授業の中で「礼に始まり、礼に終わる」「相手を尊重する心」など礼儀作法や人として大切なことを学んだ。相手と相対したときには互いに礼を大切に授業に取り組む姿勢がみられた。
- なぎなたでは、「武道をすることは好きですか。」というアンケートに対して、武道の授業が始まる前では「好き・やや好き」が4割程度だったが、授業終了後は「好き・やや好き」が8割以上を占めている。また、「今後も機会があれば多くの武道種目を体験したいですか。」というアンケートに対しても7割以上が「思う・やや思う」と回答している。これは、地域スポーツ指導者の専門的な授業を受けての意識変化だと考える。
- 本事業で武道に興味・関心を持った生徒が増加し、機会があればまたしたいという生徒も多くいた。しかし、道具の準備や場の設定をしなければ取り組めないというのが実態である。生涯スポーツとして取り組むにはどのように繋げるかが課題である。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・なぎなた 柔道となぎなたを通して、武道特有の礼法や基本動作を学習することにより、日本の伝統文化の理解と安全で楽しい武道の授業の展開	鳴門市大麻中学校（徳島県） 電話番号 088（689）0230 メールアドレス ooasa-jhs@ma.pikara.ne.jp
--	--

● 実践研究のねらい

- 柔道からなぎなたへとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法や所作、武道特有の相手への敬意、体さばきなどの基本動作の指導によって、共通点や違いに気付かせ、武道における日本の伝統的な文化を理解させたい。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

● 複数種目指導モデル 第1学年（2学級27名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	柔 道						なぎなた	
学習の流れ	オリエンテーション 礼法・受け身	導入（挨拶、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時のめあての確認）						
		準備運動						
		受け身の練習 （後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）						
		（姿勢・組み方・進退） 基本動作	（体さばき・崩し） 投げ技の基本動作	体落とし 大腰	支えつりこみ足 膝車	固め技の簡易試合 固め技・返し方	（体さばき・面打ち） 基本動作 ビデオ視聴	（打ち方・受け方） 打ち返し練習 打ち返し

● 指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選

限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。

- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実

日本武道館制作の映像を活用し、より効果的に武道の理念や動きなどを理解させる。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解

オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。

- 単元を通した安全で楽しい学習

柔道・なぎなたを通して、相手や周囲への安全確保を意識する場を設けるなど、主体的に安全に楽しく活動できる態度を身につける。

● 授業の様子



【柔道の授業】

柔道の本けさ固めの練習。
周囲の安全を確認しながら技をかけ、楽しく活動することができた。



【なぎなたの授業】

なぎなたの礼法や所作を学ぶことにより、武道の共通点や日本文化の美しい所作について理解できた。

● 生徒の意識、感想、変容など

- 柔道の授業と聞いたときはとても不安でしたが、「礼法」では緊張の中、背筋が伸び新鮮さを感じました。また、様々な「技」を教わりましたが、どの技も習得できたときにはとても嬉しかったです。
- 柔道の授業を通して、受け身がどれほど重要であるかということを知りました。繰り返し練習をする中、「受」の怖さは減り徐々に上手にできるようになりました。「取」の時には相手のことを考えながら安全に気をつけて取り組みました。
- 柔道は難しいと思っていましたが、段階をおって丁寧に指導していただき毎時間楽しく、わくわくしながら授業を受けることができました。また、東京オリンピックの柔道は見てみたいと思いました。
- なぎなたの授業と聞き、何もわからず不安でしたが、先生方から基本的なことや技を丁寧に教えていただき、とても楽しく授業を受けることができました。また、チャンスがあればなぎなたをしてみたいと思いました。
- なぎなたの本を読んだこともあり、ずっとなぎなたをしてみたいと思っていたので、今回体験できてとても嬉しく思いました。体さばきや打ち返しなど難しかったのですが、もう少し授業を受け上手になりたいと思いました。

● 成果と課題

- 複数の種目を学習することにより、生徒はより武道に対する興味が高まっていた。武道を通して、礼法や基本動作を学ぶことにより、武道に共通する日本の伝統的な美しい所作を理解し、身につけることができた。
- なぎなたは、地元高校に県内唯一の「なぎなた部」があるため、連盟からの協力が得られ、道具の借用や指導者の派遣や確保が容易であり、授業に取り入れることができた。
- 柔道の授業は、昨年度から柔道連盟の外部指導者に指導していただいている。なぎなたは、初めての試みのため連盟の方に指導に来ていただき、2時間ではあったが、礼法、構えや体さばき、基本打突、打ち返しを効率よく指導していただいた。
- 武道の指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していきたい。
- これまでの柔道の学習になぎなたの学習を2時間加えて単元計画としたが、なぎなたは、あと1～2時間増加できると学習がより深まると考えられる。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は課題となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

なぎなた・柔道 なぎなたの礼法や足さばきを学ぶことで、柔道との共通点を気付かせる授業の展開	枕崎市立別府中学校（鹿児島県） 電話番号 0993（76）2012 メールアドレス beppu-jhs@po12.synapse.ne.jp
--	---

●実践研究のねらい

- なぎなたから柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法や足さばきなどの基本動作は共通点に気付かせながら、技の指導では、構えや打ち込みの仕方を身に付けることをめざす。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索することや限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することをめざす。

●複数種目指導モデル 第1・2学年（2学級35名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	オリエンテーション（なぎなた・柔道）	なぎなた			柔道							
学習の流れ		導入（あいさつ，伝統的な行動の仕方，健康観察，本時の学習の見通し）										
		準備運動										
		基本動作の学習	学習のまとめ	基本動作の学習		受け身の練習					学習のまとめ	
		対人的技能の学習		受け身の学習		固め技の学習		投げ技の学習				
		整理（整理運動，本時の振り返り，次時の連絡，あいさつ）										

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションや授業はじめに、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。また、用具の使い方や生徒の距離間は気をつける。

●授業の様子



【オリエンテーション】

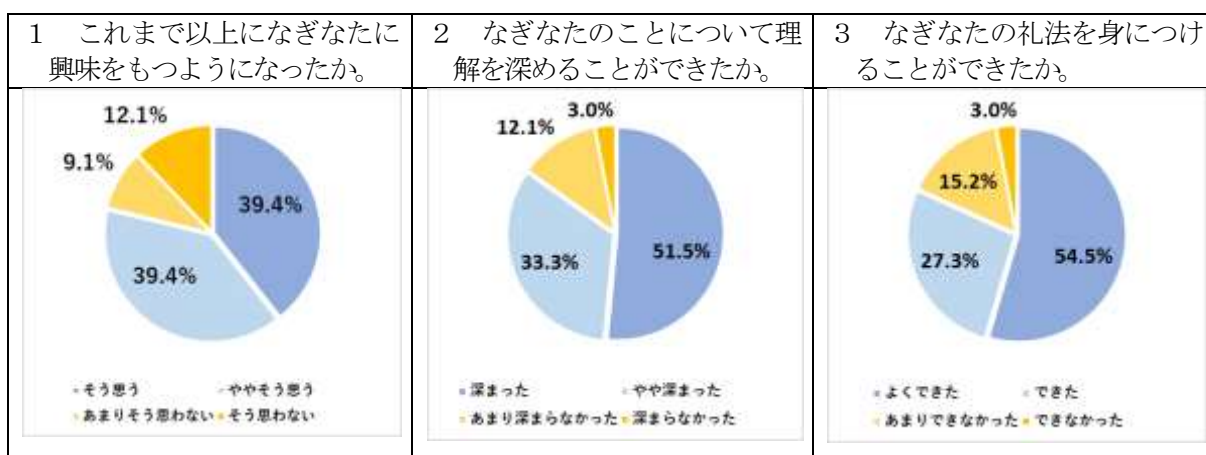
なぎなた・柔道の特性や成り立ち、礼法、安全面の配慮点などについて、外部指導者から指導することにより、武道への関心を高められるようにした。



【対人的技能の学習】

対人的技能の学習では、面打ち、脛うちの二つとし、繰り返し行うことで、技能の習得をめざした。

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題

- なぎなたから柔道につなげた学習は、「礼法」や「足さばき」などに共通する点を見出すことができ、なぎなたに興味をもつ生徒が多くいた。指導後のアンケート結果から、なぎなたについて理解を深められた生徒が半数以上おり、充実した武道の単元となった。
- 柔道は今までも行っており、礼法においては共通点が多くあるため、理解が早い生徒が多く見られた。
- なぎなたの指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めると外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく必要がある。
- これまでの武道12時間の指導計画のなかでなぎなたと柔道を入れた単元計画としたが、なぎなたは、あと1時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道全体の指導計画を工夫する必要がある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

なぎなた・剣道 なぎなたと剣道の共通点や相違点を意識しながら、複数の武道を楽しむ実践例	館林市立多々良中学校（群馬県） 電話番号 0276（72）4025 メールアドレス chu.tatara@ed-tatebayashi.jp
---	---

●実践研究のねらい

- なぎなたから剣道へとつなげる複数種目の武道指導を計画し、礼法や用具（なぎなたや竹刀）を使う共通点に気付かせながら、技の指導では、用具の違いによる打ち込みや切り返しの違いを実感させ、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 指導効果を高めるために、担当教員や外部講師の役割を明確にするなどの工夫をする。
- 武道に苦手意識のある生徒や戸惑っている生徒が武道を楽しめるように、きめ細かな指導や安全な活動を確保するための工夫をする。

●複数種目指導モデル 第1学年（4学級126名）

種目	なぎなた	剣道
時間	主な学習内容	主な学習内容
1	・演技の鑑賞 ・礼儀作法 ・なぎなたの扱い方	・なぎなたとの違いを確認 ・礼儀作法 ・竹刀の扱い方
2	・体さばき ・振り上げ面 ・面の柄受け ・八重の構え	・体さばき ・足さばき ・基本打ち（面打ち）
3	・八重の構えからの側面打ち及びすね打ち	・足さばき ・基本打ち（面・小手・胴打ち）
4	・打ち返し ・打ち返しの応じ方 ・打ち返しの相対	・しかけ技（小手一面、面一胴）
5	・基本打突（1対多数）	・応じ技（面返し胴）
6	・競技のルールを取り入れた打ち返し	・打ったり受けたりする簡易な攻防を交えた試合稽古
7	・発表	

●指導の工夫

1 指導効果を高めるための工夫

- 動きの示範をする際、3名の外部講師が向きを変えて同時に行うことで、生徒が動きを理解しやすくする。【なぎなた】
- 教え合いの活動をする際に、互いに見合うポイント（視点）を明確に示し、見取るべき視点をベースにしながらい指摘し合うことで、運動の行い方を正確に身につけられるようにする。【剣道】

2 きめ細かな指導や安全な活動を確保するための工夫

- 説明を理解できない生徒には、身振りで説明したり、図を用いた資料を提示したりする。
- 教え合い活動では、異能力グループ（技能面を上位群・中位群・下位群に分け、3つの集団が1つのグループに均等に所属するもの）を形成し、上位群の生徒が下位群の生徒を支援できるようにすることで、下位群の技能習得につなげていく。
- 用具のぶつからないスペースをライン等で意識させたり、グループごとに時間をずらして練習させたりすることで、生徒一人一人の安全な活動スペースを確保する。

●授業の様子



【外部講師によるきめ細かな指導の工夫】

3名の外部講師が役割分担（全体へのポイント指導、師範演技、個別対応 等）を明確にするとともに、それぞれの指導範囲を決めておく。



【安全に活動するための工夫】

なぎなたや竹刀が隣同士でぶつかることなく、安全に活動できるように、体育館のラインを目印にしたり、列や活動順番を明確にしたりしていく。

●生徒の意識、感想、変容など

- なぎなたで学習した礼法や体さばきを剣道でも活かすことができた。
- なぎなたと剣道では、基本的な動作や礼法は同じであるが、用具を持つ手が左右逆になるので、混乱してしまうことがあった。
- 竹刀に比べてなぎなたは、体全体を使わないと打ち返しができないことが実感でき、同じような武道でも技術が違うことが分かった。
- 最初になぎなたを扱ったので、竹刀を扱うのは比較的簡単であった。
- 複数の武道を経験できて、とても楽しかった。機会があれば、その他の武道も経験してみたいと思った。

●成果と課題

<成果>

- なぎなたの学習を剣道の学習の前に行ったことで、礼法や用具の扱い方など共通する点を見出すことができ、剣道の学習がスムーズに行えた。また、なぎなたで学習した体全体を使って用具を扱うことが身に付いていたため、剣道の学習だけを行っているときより、竹刀を上手に扱うことができていた。
- なぎなたでは、3名の外部講師に協力していただいたので、生徒一人一人にきめ細かな指導を行うことができ、正確な技の習得につなげることができた。
- 単元の導入で、実際に外部講師や教師の師範演技を見せたことにより、生徒の興味・関心が高まり、積極的に学習に取り組む姿が見られた。

<課題>

- 外部講師の活用効率を考えると2クラス同時に行いたいのが、安全な活動スペースを確保するためには、1クラスでの実施になってしまう。
- 生徒の学習状況を適切に評価したり、評価を指導の改善に生かしたりするためには、評価規準の設定の仕方等について検討が必要である。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・なぎなた 剣道となぎなたの基本動作の共通点への気づきと、基本的な対人技能の習得	彦根市立中央中学校（滋賀県） 電話番号 0749（26）0200 メールアドレス wakui-tsutomu@mx.hikone.ed.jp
--	---

●実践研究のねらい

- 剣道からなぎなたへとつながる複数種目の武道指導の中で、礼儀作法や足さばきなどの基本動作の共通点に気づかせながら、基本的な対人技能の習得を図る。また、竹刀となぎなたという2つの長い用具を扱う中で、安全面に配慮できる力をつける。
- 外部指導者の活用について、効果的な授業者との役割分担を模索すること、限られた単元の中で指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第1学年（4学級130名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	剣道								なぎなた	
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の目標と流れの確認）								
		準備運動								
	礼儀作法の学習	基本動作の学習	防具の装着	防具の装着	防具の装着	基本動作の学習	基本動作			
				基本打突の学習						
				基本動作の学習	基本打突の学習（面、胴、小手）	対人技能の学習		足さばき構え方素振り	打ち返し	
	まとめ（整理運動、本時の振り返り、次回の連絡、あいさつ）									

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が「わかった」、「できた」という達成感を味わうことができるように指導内容の精選を図る。
- 生徒の視覚的な理解を促す
映像、プリント、外部指導者と授業者の模範演技などでイメージを膨らませるとともに、協働的な学習場面を設け、効果的な技能の習得につなげる。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方
外部指導者より防具の点検方法や安全な運動の仕方について説明を受ける場面を設ける。
- 徹底した防具の装着
対人技能の練習中に防具が外れないよう、初期段階で装着の指導を徹底する。

●授業の様子



【礼儀作法（立礼）】

相手や場所があることによって自分を高めていけるという武道の考え方のもと、自ら進んで感謝をあらわす礼ができるようにした。



【基本動作の学習】

外部指導者の見本と授業者の巡回の両輪で指導することにより、なぎなたの基本技能が習得できるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

- 単元が始まる前の生徒の中には、武道に対して「くさい」「危険」「痛い」などの否定的な意見が多くみられたが、単元が終わるときには「まだやりたい」という声が多くあった。特になぎなたに興味を持つ生徒が多かったようである。
- 武道の単元が終わった後も、授業で体育館に入ってくるときに「お願いします」とあいさつをする生徒の姿があるなど、日常の行動に変化があった。当たり前のことを当たり前と感じず、感謝の気持ちをあらわすことを今後も続けて欲しい。

●成果と課題

- 剣道からなぎなたにつなげた学習は、「礼法」や「足さばき」などに多くの共通する点を見出すことができ、技能を身につけやすかったと感じる生徒が多くいた。先に剣道を学んだことで、初めて行ななぎなたでもすぐに「わかる」ことがあり、多くの生徒が意欲を持って取り組めたために、「できる」につながったようである。一方で、「できる」という達成感を感じられなかった生徒も一部いた。個に応じた支援を増やす、時間に余裕のある中で協働的な学習を取り入れていくなど指導方法をさらに工夫する必要がある。
- なぎなたの指導においては、外部指導者の存在は重要であった。専門性が高く、どのような順番で、どのように教えていけば生徒がわかりやすいのかなど、教員側からも多くの学びがあった。今後、研修を重ねて教員の力量を高めるとともに、外部指導者との役割分担をより明確にした指導計画について検討していく必要がある。
- 今回の単元では、剣道8時間の指導計画になぎなた2時間を加えた単元計画としたが、なぎなたを3時間程度増加できると学習がさらに深まると考える。他学年や他領域との調整が必要になるため、現状としては時間の捻出が大きな課題となる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・なぎなた 剣道からなぎなたにつなげることで竹刀やなぎなたの操作方法、足さばきや体さばきを段階的に学ぶ授業の展開	有田川町立金屋中学校（和歌山県） 電話番号 0737（32）3171 メールアドレス jhs.kanaya@aridagawa-town.ed.jp
--	---

●実践研究のねらい

- 剣道からなぎなたにつながる複数種目の武道指導を計画し、竹刀やなぎなたの操作方法、足さばきや体さばきを段階的に学び、共通点に気付かせながら授業を展開し、武道への興味や関心を引き出しつつ単元の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、教師との効果的な役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第2学年（2学級45名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	剣道								なぎなた	
学習の流れ	オリエンテーション（剣道）	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）								
		準備運動								
		基本動作の練習						学習のまとめ	基本動作の練習	対人的練習
		竹刀操作の練習	足さばきの練習			対人的技能の練習	足さばきの練習			
			体さばきの練習							
		整理（整理体操、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）								

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実させ、それらの資料を活用し生徒の興味や関心を引き出しながら、理解度を高められるよう活用する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 場の設定
竹刀・なぎなたを操作するにあたり、ラインテープ等を活用し開始線や中心を設け生徒の接触や傷害を避け、安全に取り組める工夫をする。
- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。また、教師より授業全体について注意事項を説明する場を設ける。

●授業の様子



【竹刀操作の練習】

竹刀操作について外部指導者から指導してもらうことにより、より正しくわかりやすく生徒が学習することができ、関心を高めながら取り組めるようにした。



【対人的技能の練習】

基本動作や足さばき、体さばきを練習した後に対人的技能の練習を行うことにより、技術の向上が見られた。

●生徒の意識、感想、変容など

- 竹刀の正しい持ち方や足さばきを理解することができた。
- はじめてなぎなたを持ったとき、少し重く、長いので難しかった。なぎなたを取るときや置くときは両膝をついて両手ですので、なぎなた競技をしている人はものを大切にしているんだと思った。
- (体育館、先生、相手に対する) 武道特有の礼儀を理解することができた。
- なぎなたは想像していたよりも長くてびっくりした。また、鎌倉時代からあることにも少し驚いた。剣道と違い、同じ面打ちや中段の構えが難しかった。
- 今まででは声を出すことが恥ずかしかったけど、声を出すことで気持ちよく剣道することができたので、これからは何をするときでも恥ずかしがらずに声を出していこうと思います。
- 剣道と似ていて正座や中段のかまえ、自然体とかがあった。なぎなたは竹刀より重かった。
- 次に剣道をするときは道着を着て、防具を付けてやってみたい。

●成果と課題

- 剣道からなぎなたにつながる複数種目の武道指導を計画し、竹刀やなぎなたの操作方法、足さばきや体さばきを段階的に学ぶことができ、これらの共通点に自ら気付く生徒も多くいた。また、外部指導者に指導してもらうことにより、礼儀を重んじ、相手を尊重する武道の精神を生徒は学び、武道への興味や関心を引き出し、生徒が積極的に取り組める授業展開を図ることができた。
- 普段使うことのない竹刀やなぎなたを持つことで、生徒の意欲を引き出すことができた。
- 剣道はもちろんなぎなたの指導において、外部指導者は専門性が高く、その存在は大変重要である。授業で教師は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあった。研修に取り組んで専門性を高め、外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画を作成し、引き続き内容を検討していく必要がある。
- 防具等を含む備品がなかなか揃っていない状態であり、剣道では防具を付ける過程を学習することができなかった。今後、授業の一層の充実を考え、備品の整備を検討していく必要がある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・なぎなた 武道の相違点や共通点を見出し、武道のよさや奥深さを学ぶ授業の展開	佐賀県立香楠中学校（佐賀県） 電話番号 0942（83）2211 メールアドレス kounanchuugakkou@education.saga.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 剣道の授業に加え、新たになぎなたを体験し、武道の楽しさや喜びを味わうとともに、相違点や共通点を見出すことで、我が国固有の伝統と文化について、より深く学ぶことを目指す。
- 外部指導者の活用について、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第2学年（3学級120名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	学習の流れ 事前 アン ケー ション （剣道）	剣道									なぎなた	
		健康観察・準備運動										
		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、本時の学習の見通し）										
		基本動作の学習	基本打突の学習				か つ こ い い を 見 つ け て 言葉にしよう	（発表会に向けて） 形の学習	形の発表会	剣道具の着け方・しまい方	オリエンテーション	基本打突・形の学習
			形の学習								基本動作の学習	
			レクリエーション的活動 （新聞切り、ボール打ち、押し相撲など）									
		整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）										

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 剣道となぎなたの相違点を見出すための手立て
なぎなたと剣道との違いに気づくことができるように、剣道の時間に竹刀の長さや間合い、体さばきに着目した活動を行う。
- 剣道となぎなたの共通点を見出すための手立て
剣道の時間に学んだ礼法や基本動作、基本用語等の学習内容を外部指導者に伝え、なぎなたの指導内容を外部指導者と協議し、精選する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、安全な運動の仕方について説明し、本物の刀を持っているという意識付けをする。
- 安全な運動を行うための場の設定
体育館を広く使って活動し、竹刀やなぎなたの持ち運び方や置き方の指導を徹底する。

●授業の様子



【外部指導者による模範演技】

初めて見るなぎなた、静まりかえった体育館に響く有段者の氣勢やなぎなたの音に、生徒の興味が一気に高まった。

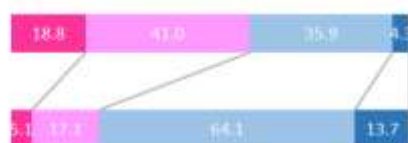


【外部指導者による形の指導】

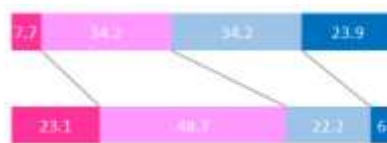
なぎなたの長さや間合い、手の持ち替え、左足が前になることがある体さばき、打突部位にすねがあることなど、形の中で相違点に気づいた。

●生徒の意識、感想、変容など

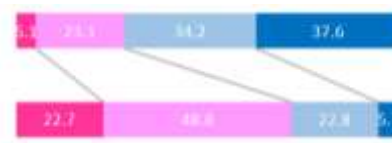
◆武道は怖い



◆武道は楽しい



◆武道はかっこいい



■ とてもそう思う ■ 少しそう思う ■ あまり思わない ■ まったく思わない

実践前のアンケート調査では、武道にマイナスイメージをもっている生徒が多く、興味・関心が低かった。しかし、実践後の生徒の感想では、「剣道と間合いや体さばきが違って新鮮だった。」や、「礼にはじまり礼に終わることや、左座右起、氣勢など共通する言葉がたくさんあった。」と、違いや共通することに気づき、武道に対する関心が高まった様子がうかがえた。

●成果と課題

- なぎなたを体験することで、剣道との違いに気づくとともに、多様な武道に触れることで、武道の楽しさや奥深さを知ることができた。
- 剣道となぎなたに共通するところに気づき、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする武道のよさや大切さを感じることができた。
- 外部指導者の模範演技に感動し、刺激を受けた生徒が多く、本物に触れ、学びに向かう力が高まる貴重な時間となった。生徒に新しい経験をさせ、本物に触れさせることの重要性を強く感じた。
- 生徒はなぎなたに興味をもって、とても意欲的に取り組んだ。今回は、なぎなたが2時間という限られた時間であったため、あと数時間あれば、さらに知識や技能を習得でき、より深い学びになったと考えられる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・なぎなた 複数の種目から武道の関心・意欲を高める、 体育担当教員と外部指導者が連携した授業実践例	日之影町立日之影中学校（宮崎県） 電話番号 0982（87）2839 メールアドレス 4817ja@miyazaki-c.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 2種目の武道を通して、礼節を重んじる伝統的な考え方を始めとする、武道の伝統文化への理解を深め、武道に対する関心・意欲を高める。
- 外部指導者のもつ専門的な知識・技能を活用し、武道を専門としない保健体育科教諭の指導力向上と、外部指導者の専門的かつ細やかな支援で生徒の技能を高める。

●複数種目指導モデル 第2学年（1学級34名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	オリエンテーション	剣道								なぎなた		
学習の流れ		導入(あいさつ、武道の歴史、礼法、本時の学習の見通し)										
		準備運動										
		昨年度の復習			防具の着装						基本動作の学習	
		基本動作の学習			連続技の学習			他者評価				
		対人的技能の学習								打ち返しの学習		
					対人的技能の学習							他者評価
		整理(本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ、片付け)										

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 剣道となぎなたの開始時と終了時には、必ず「正座」「黙想」「座礼」を行うとともに、他者と相対する場面でも必ず「立礼」を行うなど、礼法指導を徹底した。
- 外部指導者による、模範演技を見せることで、生徒が打ち方や姿勢、足さばきなどを正しく学ぶことができるようにした。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- なぎなたを持つ際は、必ず両膝をついて、両手で持ち、周囲の状況や刃の向きに注意して持ち運ぶなど、安全確保に努めた。
- 竹刀やなぎなたに割れや弦のゆるみなどがないか、必ず授業前に確認するようにした。
- 外部指導者が模範を示す中で、けがに繋がるポイントを具体的に説明した上で生徒が安全に練習を行えるようにした。
- 相手を思いやる心構えや技の出し方を学ぶことで、生徒たちが自主的に安全面に気を付けることができるようにした。

●授業の様子



【技の出来栄を評価する試合】

学んだ技を打ち、技の出来栄を審判員が評価する試合。実際の試合と同様の審判法や作法を用いることで、より実践的な武道に対する興味を高めることができた。



【一対多数ゲーム】

模範者に向かって、基本的な打突を全員で行うゲーム。授業者の掛け声に合わせて全生徒が技や声を揃えて行うことで、一体感を感じられるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

1 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2 2種目の武道を学習したことで、伝統的な礼法は身に付き了吗。	3 これからも多くの武道を学びたいと思いますか。
○ 高まった ○ 高まらなかった ○ 分からない	○ 身についた ○ 身につかなかった ○ 分からない	○ 思う ○ 思わない ○ 分からない

生徒の感想

- 剣道では、2年間を通して打つ人を敬うことや、声を出すことを学んだが、それはなぎなたでも同じだったので驚いた。剣道・なぎなたで行った礼法を日頃から意識して行い、来年は他の武道もやってみたい。
- 剣道となぎなたは似ているところがあって、「あ！これやったことがある！」と思うときもあれば、「こういうところが違うんだ」と思うところもあり、たくさんの発見があつてすごく面白かった。
- 剣道でもなぎなたでも、相手のことを考え、礼法をきちんと行えたのでよかった。見た目は、「危ない、難しい」というイメージだったけど、やってみると本当に楽しくて、またしたいと思った。
- なぎなたは、2026年に地元でも国民スポーツ大会があるそうなので、行ってみようと思った。

●成果と課題

- 剣道は昨年に引き続いての9時間履修であるため、基本的な技能の学習から発展的な学習へ移行できたが、なぎなたは今年初めての試みであり、時間も3時間と限られていたため、武道に慣れ親しむことに重点を置いて指導を行った。その結果、限られた時間ではあったが、7割以上の生徒が2種目の武道を履修することで関心・意欲が高まり、他の武道も学んでみたいと答えている。さらに8割以上の生徒が、伝統的な礼法が身に付いたと感じている。しかしそうでない生徒も一定数いるため、個に応じた支援が講じられるよう、指導方法を更に工夫していく必要がある。
- 外部指導者を活用することで、正確な模範を基に、生徒たちが正しい知識や技能を習得することができた。しかし、授業者と外部指導者との間での打ち合わせや、授業後の反省等を充分に行うことができなかったため、今後は連携をとるための時間の確保が必要だと感じた。打ち合わせや授業の中で、授業者と外部指導者の役割を明確にさせながら、専門的な知識や技能を授業者が理解し、更なる指導力の向上に努めていきたい。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

弓道・柔道 武道における基本動作の重要性を理解させ、伝統的な考え方や作法の理解につなげる授業の展開	米沢市立第一中学校（山形県） 電話番号 0238（23）3383 メールアドレス 1chu@educ.yonezawa.yamagata.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 弓道から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、伝統的な考え方や作法などを理解するとともに、共通する基本動作の重要性に気づかせ、次の動作をスムーズに行えるようにする。
- 柔道で相手と攻防を展開するためには個人技能の習得が大事になってくると考え、弓道を通して個人技能の習得が段階的につながり向上していくことを体験ができるようにする。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第2学年（4学級104名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	オリエンテーション 学習の流れ	弓道		柔道						
		準備運動（ランニング、体操、補強運動）								
		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、本時の学習とめあて）								
		基本動作の確認	基本動作の確認			基本動作と受け身の練習				
			受け身の練習			固め技練習				
		弓引き学習	固め技の確認・練習			投げ技の習得 自由練習				試合形式 単元のまとめ
		矢を射る学習								
			簡易試合							
		まとめと振り返り（本時の振り返り、次時の確認、あいさつ）								

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

○ 指導内容の精選

限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。そのために3グループをつくり、1グループに1名の外部指導者のもと構えと矢を放つまでの指導の充実を図る。

○ 生徒の視覚的な理解を促す資料・道具の充実

資料を用いて説明したり、一人ひとりが弓を持って体験したりすることで、より具体的に作法を学ぶなどができるようにする。

2 生徒の安全を確保するための工夫

○ 安全な運動の行い方の理解

- ・オリエンテーションで、外部指導者より弓道の本来の目的や安全な運動の仕方などについて説明を受ける場を設ける。
- ・弓道や柔道に共通すると考えられる、基本動作に入る前の動作（間）を作ることで、落ち着いてできるようにする。また、矢を扱うのは外部指導者がいる時のみとするなどの約束事を徹底する。

●授業の様子



【オリエンテーション】

弓道の特性や成り立ち、安全面の配慮などについて、外部指導者から指導いただくことにより、武道についての関心を高められるようにした。



【矢を射る技能の学習】

実際に弓を引き的に向かって矢を射る活動を一人一人が行うことにより、できた喜びや達成感を十分に味わえるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

1 武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



2 武道の学習の中で、礼儀作法や技などの説明や指導はわかりやすかったですか。



3 武道（弓道）の授業に外部指導者がまた来てほしいですか。



●成果と課題

- 弓道から柔道につながり学習では、共通する基本動作の「作法」（礼で始まり礼で終わる）や「残心」（相手を思いやる心）を見いだすことができた。また、弓道の弓を引く動作が柔道の構えにつながり、体に軸をつくる動作にも役に立った。しかし、場の設定の不十分さで次の動作の意識付けがスムーズに行えない生徒も見られたので、個に応じた支援が講じられるよう指導方法や場の工夫をしていく必要がある。
- 弓道の指導においては、外部指導者（米沢市弓道連盟）の存在は大変重要であった。専門性が高く、的確な指導のもと授業を展開することができた。しかし、教員は生徒の安全管理、学ぶ姿勢等の見取りに終始してしまう状況もあり、外部指導者と教員の役割分担や連携を明確にした指導計画を考えつつ、教員の技術指導力の向上も視野に入れ検討していく必要がある。
- これまでの柔道8時間の指導計画に弓道2時間を加えて単元計画としたが、弓道は、あと2時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のなかで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は大きな課題である。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

弓道・柔道 外部講師や地域施設を活用した「できた」を引き出す複数武道の実践例	中之条町立六合中学校（群馬県） 電話番号 0279（95）3572 メールアドレス kuni-jhs@anysta.ne.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 地域の特徴を活かした弓道と攻防の楽しさを意識した柔道による複数武道の指導の充実を図る。
- 外部講師の活用について、効果的な指導ができるために、担当教師と外部講師の役割分担を工夫する。
- 生徒の安全が確保できるための指導を工夫する。
- 授業を通して、礼儀作法を学ぶことができるようにする。
- 自分と向き合い、精神を落ち着かせる方法を学ぶことができるようにする。

●複数種目指導モデル 第1学年で柔道（1学級7名）

第2学年で弓道（1学級6名）

種目	第1学年時 柔道	第2学年時 弓道
時間	主な学習内容	主な学習内容
1	・柔道の特性や歴史を知る ・礼儀 ・柔道着の着方	・歴史と特性（紹介映像活用） ・弓道との出会い（演武見学）
2	・後ろ受け身 ・横受け身 ・前回り受け身	・礼法 ・ひも弓を作る ・射法八節を知る
3	・受け身 ・固め技（けき固め、横四方固め、上四方固め）	・ひも弓、ゴム弓で射法八節
4	・受け身 ・相互練習 ・固め技試合	・素引きで射法八節 ・相互練習
5	・受け身 ・固め技試合 ・くずし練習	・ひも弓、ゴム弓で射法八節 ・素引きで射法八節
6	・受け身 ・くずし練習 ・支え系の技（支えつり込み足、ひざ車）	・入場から退場までの流れを知る ・素引きで射法八節
7	・受け身 ・くずし練習 ・支え系の技（相互練習）	・地面に敷いてある畳に向かって矢を放つ
8	・受け身 ・くずし練習 ・まわし系の技（体落とし） ・相互練習	・巻きわりに、正しい射法八節で弓を引く
9	・受け身 ・くずし練習 ・まわし系の技（大腰） ・相互練習	・的に正しい射法八節で弓を引く
10	・受け身 ・固め技試合 ・約束練習	・課題解決学習
11	・受け身 ・固め技試合 ・約束練習 ・単元のまとめ	・演武を見る ・納射
12		・納射 ・単元のまとめ

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 柔道の指導では、固め技など2人組で攻防を楽しみながら学習を進められるように工夫する。
弓道の指導では、外部講師や地域の弓道場を活用し、専門的な指導ができるようにする。
- 弓道の指導では、2名の外部講師が動きを説明する際、説明と示範の役割分担をした指導や教材教具を工夫して、生徒が動きを理解しやすくする。
- 柔道、弓道ともに、少人数の利点を活かして、個別にきめ細かい指導をする。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 弓道は、鋭い矢を使用するため、活動ごとに安全に係る事項を確認しながら学習を進める。
- 柔道、弓道ともに、生徒一人一人の安全な活動スペースを確保できるように目印を用意したり、講師や教員が生徒の動きを確認しながら活動したりするようにする。

●授業の様子



【教材教具を工夫した分かりやすい指導】

ひも弓やゴム弓、映像をバランス良く組み合わせて、生徒が弓道の動きをイメージできるように指導を工夫している。



【段階的な指導】

ひも弓→ゴム弓→素引き→巻きわら→近くの的→遠くの的と、段階的に指導することで、安全に進めることができています。



【安全な活動を意識した活動の流れ】

誤って矢を放つことがないように、順番に、一人一人の動作を確認しながら的に向かって矢を放つなど、活動の流れを工夫している。



【少人数の利点を活かした個別指導】

個別の課題に応じた、生徒一人一人に対してきめ細かい指導を行うことができています。

●生徒の意識、感想、変容など

- 柔道では、相手と組み合う楽しさを感じることができた。弓道では、道場の厳粛な空気の中で矢を放つ緊張感を味わうことができた。
- 柔道では、相手と組み合う中で信頼関係を築くことができた。弓道では、自分との向き合い方を学ぶことができた。どちらも、学校生活や、日常生活で生かしていきたい。
- 柔道は、相手に対しての礼儀、弓道は場所や的に対しての礼儀と、同じ武道でも礼儀作法が違うことがわかった。
- 柔道・弓道の授業を通して、人に感謝すること、物や行動に感謝することを学ぶことができた。

●成果と課題

<成果>

- 弓道の学習では、外部講師の専門的な指導や地域の道場を活用したことで、生徒は、生涯スポーツとしての武道を意識できた。

<課題>

- 弓道については、外部講師の方や学校の担当教師が替わると、専門性が高いだけに、毎年同じように指導することが難しい面もある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・弓道 武道において、技を身に付けて試合で勝つことだけを目指すのではなく、礼法や相手を尊重する態度を学ぶ授業の展開	鞍手町立鞍手中学校（福岡県） 電話番号 0949（42）0109 メールアドレス kuratejhs@clock.ocn.ne.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 剣道と弓道という2種類の武道を学習することを通して、武道の共通点に気付かせながら、日本の伝統的な考え方の良さを味わわせる。
- 地域の剣道の有段者や弓道の有段者とのTTによる授業を行うことで、生徒に対して武道の理念や基本動作を正確に指導する。
- 武道の授業を通して、相手を尊重するなどの礼節を重んじる態度を身に付けさせる。

●複数種目指導モデル 第1学年（3学級123名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
種目	オリエンテーション（剣道・弓道）	剣 道								弓 道		
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）										
		準備運動、礼儀作法								学習のまとめ 日本剣道形	基本動作の学習	学習のまとめ
		基本動作の学習										
		対人的技能の学習										
	整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）											

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選と生徒の視覚的な理解を促す工夫
オリエンテーションで外部指導者の助言をもとに作成した教材（パワーポイント）や映像などの資料を工夫することで、限られた時間内での指導がより効果的になるようにする。
- 場の工夫（1クラス40名以上の生徒に限られた時間内でより効果的に指導するため）
剣道においては、広い体育館で一斉に繰り返し素振りや足さばき等を稽古する。弓道においては、学校の向かい側にある町立の弓道場に移動して授業を実施することで臨場感を味わわせる。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
- 複数の外部指導者をGTに招聘
生徒の安全確保の充実とともに、技能の習得面での効果も上げる。

●授業の様子



【体育館でのすり足や踏み込みの稽古】

40名以上の生徒が一斉に竹刀を振り、すり足や踏み込み等を連続で稽古するため、体育館で剣道授業を実施した。(剣道有段者とのTT)



【弓道場での基本動作の稽古】

中学校の向かいにある町立の弓道場において、茶道や華道にも通じる射形の美しさを学んだ。(弓道有段者とのTT)

●学習後の生徒の意識調査

1 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2 2種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。
・高まった 45.0% ・やや高まった 45.0% ・あまり高まらなかった 2.5% ・高まらなかった 7.5%	・深まった 55.0% ・やや深まった 37.5% ・あまり深まらなかった 2.5% ・深まらなかった 5.0%	・思う 45.0% ・やや思う 25.0% ・あまり思わない 22.5% ・思わない 7.5%
○ 「2つの武道に共通すること」について (40人学級) ・礼儀 31名 ・残心 29名 ・心を整える、冷静さ、己を磨く、克己、丁寧 14名 ・正座 10名 ・作法の手順(発声、黙想、左から、姿勢、すり足) 10名 ・日本の伝統文化 5名 ・道具(物)を大切にすること 2名 ・様々な言葉が生まれた 2名 ・スポーツではない 2名		

●成果と課題

- 剣道から弓道へつないだ学習は、生徒達の武道への関心を高めること、伝統的な考え方や行動の仕方への理解を深めることに効果的であった。
- 剣道や弓道の指導においては外部指導者の存在は大きく、技術的な指導のほとんどを行い、教員は生徒の安全管理面を中心に担っていた。今後は教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画を立て、更に充実した授業を実施していく。
- これまでの剣道9時間の指導計画に弓道2時間を加えて単元計画としたが、弓道は、あと2時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出が課題である。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

相撲・弓道 武道の伝統と文化への理解を深め、生涯スポーツにつながる多様な武道の授業実践	須崎市立南中学校（高知県） 電話番号 0889（47）0011 メールアドレス minami-j@city.susaki.lg.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 新学習指導要領において示された我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、武道授業における複数種目の実践を行うなど、多様な武道種目に触れる授業の実践研究を行い、武道指導の充実を図る。
- 武道の伝統と文化への理解を深める相撲及び弓道の授業を実践する。
- 授業協力者を活用して、より深い技術指導を行う授業を実践する。

●複数種目指導モデル

相撲 第1学年（11名） 弓道 第3学年（11名）

学年	1 年								3 年									
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8		
種目	相撲								弓道									
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）								オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）							
		準備運動									準備運動							
		基本動作 （腰・浄水等）	基本となる技 （押し）	基本となる技 （寄り）	基本動作 （四股・股割り等）	基本動作	基本となる技 （押し・寄り）	基本となる技	射法八節 （素引き）		用具の扱い方	射法八節 （矢番え動作・打起し・引分け・会・離れ）				競技会 （班対抗戦）		
					基本となる技 （押し・寄り）						団体戦							
					基本となる技	基本動作 （中腰の構え等）						受け身	簡易試合		的前練習			
		整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）									整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 授業協力者（県弓道連盟）と連携して、指導計画を作成した。
- 授業内容については、授業協力者と事前に打ち合わせを行い、毎時間前にも確認をした。
- 実施方法としては、週1回、2時間続けて計8時間を履修した。
- 外部講師はT1として技術指導を行い、教員はT2として生徒への支援や補足説明を行った。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 授業前に健康状態の確認を徹底して行う。
- 的の高さが身長の高さによって大きく異なるため、男女に分けたグループを編成した。
- 矢を放つ際は前方に人がいないこと、矢を的から外すときは次の人は必ず待つこと、順番を待つ時は後ろで待つなどの安全指導をした。

●授業の様子



【素引き】

素引きで射法八節を学んでいる。

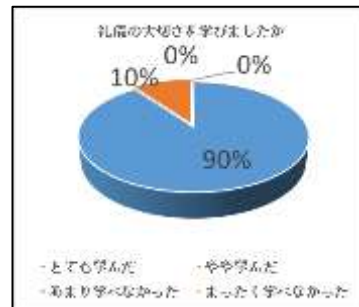
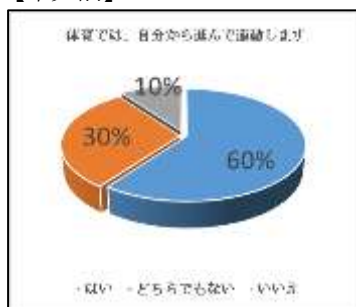


【射法八節】

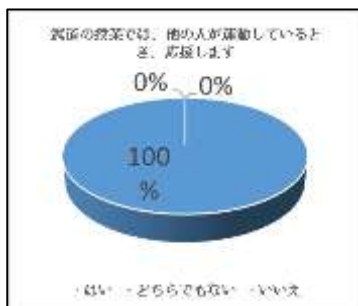
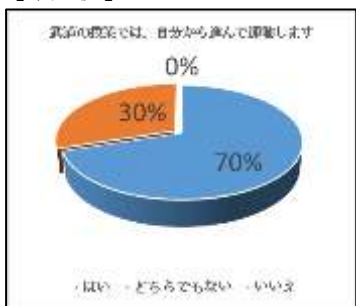
射法八節を学びながら射法八節の練習をする。

●生徒の意識、感想、変容など

【単元前】



【単元後】



●成果と課題

- 生徒はこれまで経験したことのない弓道を相撲と合わせて学習することによって、武道の奥深さを学ぶ経験ができた。
- 指導力に優れた授業協力者による技術指導や模範演武が刺激となって、生徒にとってプラス面が多く感じられる授業になった。
- 授業準備が大変で、どこでも安全に取り組めるものではないため、実施場所も限られると感じた。
- 他の種目以上に少し経験しただけでは、技術等について生徒たちに詳しく教えることが難しい。また、評価する上でどこを視点に見取ればよいかの判断に苦労した。
- 授業協力者と打ち合わせる時間があまり取れず、授業の見通しを持つことが難しかった。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・合気道 柔道と合気道の伝統的な考え方や礼儀を重んじ、基本動作や基本となる技を行う柔道から合気道につなげ、武道の共通点について段階的に学ぶ授業の展開	千葉市立都賀中学校（千葉市） 電話番号 043（252）2772 メールアドレス tsg-jhs@cabinet-cbc.ed.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 合気道から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法や受け身などの基本動作の共通点等に気付かせながら、武道授業の充実を図る。技の指導では、攻防を展開する柔道と取りと受けに明確な約束練習がある合気道との違いを気付かせながら、相手を尊重して練習に取り組む態度を育成する。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第1学年（2学級36名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目		柔 道										合気道
学習の流れ	オリエンテーション (柔道・合気道)	導入(あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し)										
		準備運動、基本動作の学習										
		受け身の学習									学習のまとめ	基本動作の学習
		固め技の学習						対人的技能の学習				
		整理(整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ)										

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 限られた時間内で生徒が技を身に付け、達成感を味わうことができるよう、指導内容や授業の流れを外部指導者と教師側で綿密な打ち合わせを行い、互いに共有したうえで指導に臨む。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受けるとともに、基本動作の反復練習により安全に取り組めるよう指導していく。
- 単元を通して毎時間受け身の練習を行ったり、段階的に技の指導を行ったりするなど常に安全に配慮しながら学習を進める。

●授業の様子



【受け身の反復練習】

毎授業のはじめに一斉に受け身の練習を行い、けがや事故の予防に努めた。



【合気道の基本動作の説明】

外部指導者の模範演技に真剣なまなざしで話に耳を傾けていた。

●生徒の意識、感想、変容など

1 柔道は楽しいと思いますか。 (授業前)	2 柔道は楽しいと思いますか。 (授業後)	3 授業を終えて、技能が高まったと感じますか。
● 楽しい ● やや楽しい ● あまり楽しくない ● 楽しくない	● 楽しい ● やや楽しい ● あまり楽しくない ● 楽しくない	● 思う ● やや思う ● あまり思わない ● 思わない

●成果と課題

- 柔道から合気道につなげた授業は、「受け身」や「体さばき」などに共通する点を見出すことができ、合気道の基本的な技能の習得についても、「とても身に付けやすかった」と感じる生徒が多くいた。
- 外部指導者との学習はよい緊張感の中で進めることができ、安全で、専門的な知識も豊富なため技能を高めることができた。
- 今後も柔道と合気道を両方授業として取り扱うのであれば、特に合気道は外部指導者がいなければ厳しい現状である。また、教員側も専門的な知識や技能を身に付けていく必要がある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・合気道 異なる種目の中に、相手を尊重するという武道に共通の理念を学ぶ	上越市立浦川原中学校（新潟県） 電話番号 025（599）2230 メールアドレス uragawar@jorne.or.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 剣道の礼法は、他の武道にも共通して実践できるものであることを知る。
- 武道で身に付けた礼法や理念は日常生活の中にも、置き換えて考えることができることを理解し、学校生活で実践できるようにする。
- 専門家の協力を得た授業により、剣道の理念や正しい技術を身に付ける。
- 礼法や技術指導を通して、他を尊重する心や学習意欲を向上させる。

●複数種目指導モデル 全学年（3学級86名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
種目	オリエンテーション（剣道）	剣道									合気道	学習のまとめ
学習の流れ		準備運動（基本動作ドリル、発声）									ランニング	
		導入（あいさつ、健康観察、本時の学習のねらい）										
		基本動作の学習									基本動作の学習	
		基本打突の学習	連続技の学習	約束練習	判定試合							
		整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）										

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 授業開始前に、授業の流れを指導協力者と確認し、学年や前時の様子に応じた学習内容を指導した。
- 指導協力者が話す事柄を体育館壁面やホワイトボードに掲示し、指導協力者も教員も繰り返し指導に活用した。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 生徒当番を決め、休み時間中に体育館床のモップ掛けを行った。
- 剣道具を安全に装着するために、ひもを正しく結ぶことの重要性を指導協力者により丁寧に説明していただき、指導協力者と教員で個別に指導した。

●授業の様子



【初めての合気道】

初めて行う合気道に興味津々。率先して、示範のモデルに出る勇氣ある3年生徒。自分から攻撃に出ないという合気道に感動していた。



【受け身の練習】

剣道を学習してきた生徒にとっては、受け身は初めての練習。最初は、後ろ頭がついていた生徒も、後半にはあごを引けるようになった。

●生徒の意識、感想、変容など

1 他種目武道（合気道）を意欲的に学習できましたか。	2 武道学習では、個別に指導してもらえましたか。	3 他種目武道（合気道）を終えて、生徒の感想より
2.8% 0.0% 45.8% 51.4% ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない ● 思わない	28.8% 17.8% 28.8% 24.7% ● とてもそう思う ● そう思う ● あまりそう思わない ● 思わない	・思ったより楽しかった。護身術になるということで今後に生かしていきたい。 ・新しいことを学べてよかった。 ・違う技も学んでみたい。 ・意外と痛くなくてよかった。 ・他にも私たちの知らないスポーツがあるはず！もっと体験してみたい。 ・指導者の方の実際の動きは迫力があってすごかった。

●成果と課題

<成果>

○ 昨今、日常生活において、転倒したときなどに、とっさに「あごをひく」という動作がとれない生徒が増えてきていることが懸念されている。当校も「受け身」をしない剣道を継続してきているので、合気道を取り入れたことにより、「受け身」を体験することができてよかった。1時間の学習の中でも練習の後半には、受け身のコツをつかむ生徒が増えていった。今後のスキー授業の事前学習においても合気道で体験した受け身姿勢を復習していく。

○ 合気道を体験したことにより、他の武道にも興味をもつことができた。今秋、上越市に新設された「県立謙信公武道館」のオープニングイベントの見学に行き、様々な武道の演武観戦を楽しんできたという生徒もいた。

<課題>

○ 個別指導が充実できるように、指導協力者と連携しながら指導の役割分担を明確にする。(打ち合わせ時間の確保)

○ 武道の伝統的な考え方や行動の仕方が日常生活にも反映されていくように意識を高めていく。

○ 主として行う剣道の動きに通ずる他の武道についても検討する。(声を出す…空手、剣を扱う…なぎなたなど)。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

合気道・相撲 発達段階や習熟度を踏まえた指導計画及び指導体制の構築	遠軽町立白滝中学校（北海道） 電話番号 0158（48）2047 メールアドレス shirataki-jhs@engaru.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 合気道から相撲へとつなげる学習により、日本の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重する態度、礼儀作法、安全に対する心構えを身に付けるために学習活動の充実を図る。
- 保健体育科教師と地域の外部指導者とが連携して指導し、安全面への配慮や生徒の発達の段階に応じた指導内容の充実を図る。

●複数種目指導モデル 全学年（3学級15名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	合気道				相撲			
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）			オリエンテーション	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）		
		準備運動				準備運動		
	基本運動の学習 （一教、船漕ぎ、回転運動、入り身転換運動、打ち込み、対裁き）			基本運動の学習 （蹲踞、塵浄水、中腰の構え、腰割り、四股、調体、運び足、仕切り、立ち合い、受け身）				
	導入（礼法）	対人技の学習 （二教、三教、八の字返し、入り身投げ、小手返し、腕詰め返し、裏落とし）		学習のまとめ	導入（礼法）	対人技の学習 （押し、寄り、陣取り相撲、押し合い相撲、寄り合い相撲）		学習のまとめ
	基礎練習（膝行）				基礎練習（すり足）			
	整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 役割分担を明確にした指導計画の作成
事前の地域の外部指導者との打合せで、授業での役割分担を行うことにより、習熟度別の緻密な指導計画を立案する。
- 生徒の発達段階を踏まえたグループ分けと指導体制の構築
段階的な指導ができるよう習熟別にグループ分けを行い、生徒一人一人に応じた指導体制を構築する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 地域の武道場の活用
地域の合気道連盟が使用している武道場を使用することにより、広く安全な活動場所を確保して怪我の予防を図る。
- 複数での指導体制
受け身や安全な間合いについての指導を徹底するため、外部指導者（地域の合気道連盟）4名と教員1名による5名の指導体制とし、安全指導の徹底を図る。

●授業の様子



【模範を示しながらの説明】

合気道の基本動作の学習の際に、関節可動域や安全な活動などの理解を深めるために、模範を示しながら説明を行うようにした。

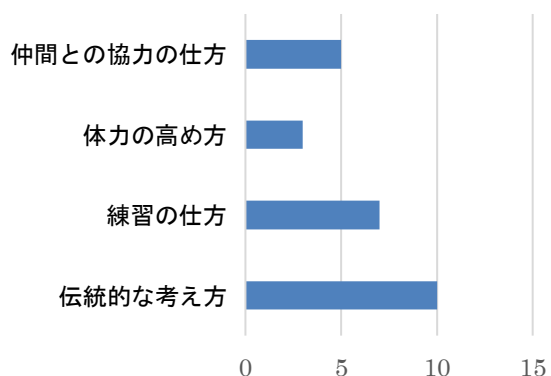


【習熟度別グループによる練習】

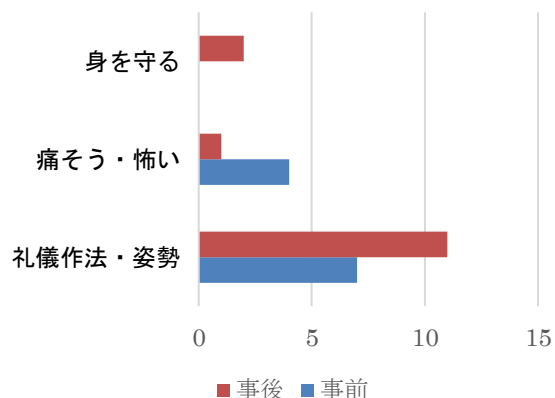
履修状況の異なる学年の生徒が一斉に行うため、習熟度別にグループ分けを行い、グループごとに外部指導者が指導を行えるようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

武道授業で理解が深まったこと (複数回答)



武道に対するイメージ



●成果と課題 (○成果 ■課題)

- 合気道の指導においては、外部指導者の協力が必要不可欠である。地元の白滝合気会に協力をいただき、事前に指導内容について打ち合わせを行うことで、ねらいを共有して指導することができた。
- 学年により履修状況が異なる中で一斉授業を行うため、習熟度別に少人数のグループを編成し、グループごとに外部指導者を割り当てたことにより、安全を確保するとともに、個別の課題に応じた指導ができた。
- 地域の文化として合気道を伝承していく必要があるが、中学校での武道授業の時間だけでは難しいことから、卒業後も合気道に親しむ態度の醸成にむけ、生徒の興味や関心をより一層高める工夫が必要である。
- 外部指導者や武道場の都合により冬季の実施としているが、移動や効率的な活動を考えると、温暖な時期に実施することが望ましい。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

少林寺拳法・柔道 二人組で行う演武練習で守者・攻者の息を合わせることから、柔道の取り・受けに繋げる授業展開	小松市立板津中学校（石川県） 電話番号 0761(21)8510 メールアドレス itazu-j@kec.hakusan.ed.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 少林寺拳法においての二人組で行う演武練習をしっかりと行わせることにより、柔道のペア学習を安全に進めることができるようにする。
- 外部指導者からより専門的な知識・技能を学びながら、武道の礼儀・作法・精神にふれる。

●複数種目指導モデル 第1学年（3学級91名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
種目	少林寺拳法								柔道						
学習の流れ	テーション	導入（合掌礼・安座・着座）本時のめあての確認								導入（左座右起・礼）本時のめあての確認					
		基本の構え・振り子突き・運歩法・気合い								準備運動・受け身（後受け身、横受け身、前廻り受け身）					
		左前中段構→上段逆突 →一字構→内受→中段 逆突（内受突）			手刀打→上受蹴・上膊拔					固め技の学習		投げ技の学習			
	礼儀・基本	二人組で 内受突の練習		演（内受突） 武発表会	二人組で上受蹴 ・上膊拔の練習			演（上受蹴・上膊拔） 武発表会							
		演武発表会に 向けてグループで練習			演武発表会に向けて グループで練習				（袈裟固め・横四方固め・縦四方固め）		出足払い・体落とし・膝車 ・大内刈り・大腰				
		まとめ（本時の振り返り、次時の連絡）合掌礼								まとめ（本時の振り返り、次時の連絡）					

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 外部指導者（少林寺拳法）を派遣していただき、専門的な知識を持って指導にあたり、意欲化に繋げる。
- お互いに教え合う活動を活性化するために、「見る視点」を明確にし、映像をみながら話し合う機会を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 複数の指導者による指導体勢をとり、技の正確性、お互いの距離、動きのタイミングに留意する。
- 柔道では、畳マットとマット（器械運動で使用する）を組み合わせ、二人組で約束練習できる十分なスペースを確保する。

●授業の様子



【二人組で演武練習】

相手との距離を十分取り、安全面に配慮させながら、守者・攻者の技を合わせるために、繰り返し練習する。



【外部指導者による専門的な指導】

4人グループで、互いに技を見せ合い、気合い・正確性・流れの3つの視点でアドバイスをし合う。外部指導者から助言を頂く。

●生徒の意識、感想、変容など

○少林寺拳法では、毎時間8項目の自己評価シートで振り返り・感想を書かせた。1, 2時間目の振り返りで「元氣よくあいさつができましたか」や「気合いはだせましたか」の項目で「もう少し」と答えた生徒が多かったが、7時間目の振り返りでは、ほとんどの生徒のが「よくできた」と答えていた。「相手を思いやりながら練習できましたか」や「礼儀正しく話を聞き、練習することができましたか」の項目では、ほとんどの生徒が毎時間「よくできた」と答えていた。

外部指導者の方に対してのお礼の手紙の中で、「二人で息を合わせて技をすることは難しかったけれど上手にできたときは、とても嬉しかった。」と「とても楽しくできた」「もっとやってみたい」という感想が多かった。

○タブレットを使った授業では、「自分の構えや技の修正点が分かって良かった。」とか「アドバイスしやすかった」という感想が多かった。

○柔道では、はじめの頃は、「受け身は痛いので嫌だ」「技がこわい」という女子が多かったが、最後には、「もっと技を覚えたい」とか「試合をしてみたい」という感想もあった。

●成果と課題

成果

- ・少林寺拳法の授業で、守者・攻者の二人組で技を習得し、演武発表をする形で授業を進めたので、柔道の授業での取り・受けの約束練習にスムーズに入ることができた。
- ・少林寺拳法の授業での見る視点「気合い」「正確性」「流れ」の明確化により、柔道での受け身の仕方、体裁きなどをお互いにアドバイスし合う姿が見られるようになった。
- ・外部指導者の丁寧な指導により、より意欲的に授業に取り組めるようになった。

課題

- ・少林寺拳法の授業では、複数の外部指導者の方々に指導して頂いたが、技の教え方が若干違い、生徒が戸惑う場面がみられたので、きめ細やかな打合せが必要だと感じた。
- ・柔道の授業においては、場の設定時間の関係で、同学年をなるべく続きの時間帯で時間割を組む必要があったが、様々な制約があつて難しかった。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

少林寺拳法・柔道 少林寺拳法で学んだ武道の心得を柔道につなげることで、武道について段階的に学ぶ授業の展開	宝塚市立長尾中学校（兵庫県） 電話番号 0797（89）3010 メールアドレス m-takarazuka0153@city.takarazuka.lg.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 少林寺拳法から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、基本的な考え方や体さばきなどの動作は共通点があることに気づかせながら、きちんとした形のある少林寺拳法から、攻防を展開する柔道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的な授業を模索すること、限られた単元計画の中から指導内容を精選して、武道に親しむことと安全に留意した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第3学年（6学級 147名）

単元計画（柔道）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	柔道								
学習の流れ	オリエンテーション	柔道着の脱ぎ着練習	準備運動・補強運動						
			あいさつ・出欠確認・本時の説明						
			受け身・基本動作の練習						
			固め技・投げ技の練習	固め技 投げ技からの連絡	実践形式の対戦 （約束練習）	学習のまとめ	実技テスト		
			整理運動・本時の振り返り・次時の連絡・あいさつ						

単元計画（少林寺拳法）			
	1	2	3
種目	少林寺拳法		
学習の流れ	あいさつ・出欠確認・本時の説明		
	準備運動・補強運動		
	オリエンテーション	基本動作の練習	学習のまとめ
	伝統的な行動の仕方	前回の復習	
	基本動作の練習	技の習得	
	技の習得練習	技のかけ合い	
	整理運動・本時の振り返り・次時の連絡・あいさつ		

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内の中で生徒が満足感を得ることができるように、事前に講師と指導内容の打ち合わせを行った。
- 生徒が柔軟に対応できるように、事前学習を入念に行い、意欲向上を図った。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の工夫
事前学習で、教師より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
- 単元を通した受け身の学習
少林寺・柔道を通して攻撃だけでなく防御の練習をする機会を設け、怪我の留意を行った。

●授業の様子



【形の練習】

学習するときに形をしっかりと反復練習することで対人練習につなげていく。



【対人的技能練習】

対人的技能の練習を行う前の形をしっかりと学習したことで、より特性を十分に味わえる。

●生徒の意識、感想、変容など

- 最初は怖いイメージを持っていたが、やってみるととてもためになることが多かった。
- 痛いことをすると思っていたけれど、やってみると楽しくてまたやってみたいと思った。
- 空手をやっていたので、ほとんど同じなんだと思っていたけどあいさつの仕方など違うことが多くてビックリした。
- とても楽しかった。
- 紙を破る時に、うまく破れた時とそうじゃない時があつてコツがいるんだなあと思った。

●成果と課題

- 少林寺から柔道につなげた学習は、「受け身」や「足さばき」などに共通する点を見出すことができ、技能の習得についても、身に付けやすかったと感じる生徒が多くいた。生徒の感想から、大半の生徒が複数武道の学習を肯定的に捉えているが、そうでない生徒も一定数いるため、生徒の状況によって、個に応じた支援が講じられるよう指導方法を更に工夫していく必要がある。また、生徒の関心が高い種目でもあったので、今後も継続して指導に取り組んでいきたい。
- 少林寺の指導においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き、検討していく。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

剣道・少林寺拳法 技のできばえ試合や基本修練により、攻防について段階的に学ぶ授業の展開	由利本荘市立鳥海中学校（秋田県） 電話番号 0184（57）2309 メールアドレス chokai-jh@city.yurihonjo.akita.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 剣道では「技のできばえ試合」を行うことで、他者からの評価により自分の技の完成度を確かめることができるようにし、少林寺拳法では、「勝ち負けを競わない。優劣を決めない」という修練の考えのもと、技能を習得するためにペアと協力して学習（基礎修練）することで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者からの指導協力を得ることで技能や知識の確実な定着を図るとともに、安全面に配慮した指導方法の研修を深める。

●複数種目指導モデル 第1学年（1学級23名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
種目		剣 道				少林寺拳法		剣 道			
学習の流れ	オリエンテーション（剣道・少林寺拳法）	剣道の歴史	座礼・学習の見通し			基本所作		座礼・学習の見通し			
			基本動作 1			基本修練 1		準備運動・素振り・発声			
			準備運動・構え・足さばき			（突・蹴）		基本動作 2			
		礼儀作法	素振り（簡易竹刀・木刀）			基本修練2-1剛法		打突の仕方			
			基本動作 2			（構え・突・蹴・突蹴）		基本動作 2 の技、基本となる技による			
			打突の仕方			基本修練2-2剛法		『技のできばえ試合』			
		素振り	基本となる技（面・小手・胴・小手→面）			（受け・内受突）		・先攻、後攻の順で技を披露			
			（引き胴・面抜き胴）			基本修練 3 柔法		・審判の生徒による評価、アドバイス			
			学習のまとめ・講評・座礼			座禅		学習のまとめ・講評・座礼			

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 技のポイントを理解できるようにする資料提示の工夫
絵（パネル）や授業協力者の示範等により技のポイントを提示し、理解が深まるようにする。
- 「技のできばえ試合」における相互評価
技の完成度についてお互いに助言したりする協働的な学習場面を設定し、技能の定着を図る。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 簡易竹刀「痛く竹刀」（塩化ビニールパイプとスポンジ製）の活用による安全面の確保
授業協力者考案の簡易竹刀を活用し、防具を着用しないで剣道の授業をする際のケガを防止する。
- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、授業協力者より安全な運動の仕方、用具の扱い方について説明を受ける。

●授業の様子



【剣道：胴（右）の打ちと受け方】

授業協力者の示範により技能のポイントを提示し、打突の仕方や受け方、足さばき等への理解が深まるようにした。



【少林寺拳法：柔法 抜き】

授業協力者の示範により支点を意識して抜くことを理解し、安全に留意しながらペアで練習に取り組むようにした。

●生徒の意識、感想、変容など

【生徒への質問紙調査から「剣道と少林寺拳法の2種目を学習することについて、どう思いましたか？」】

- 日本の様々な武道について知ることができた。武道のよさを学ぶことができた。楽しかった。（6名）
- 普段の生活ではやらないことなので関心を持った。わくわくした。よい経験となった（5名）
- 自分の将来に役立つと思った。自分のためになるいい経験だった。（3名）
- 覚えることがたくさんあって難しかった。学ぶことがたくさんあって大変だと思った。（3名）
- 少林寺拳法の学習をしたときに、剣道の礼法を忘れるのではないかと思った。（2名）
- 礼儀作法、所作などが似ていた。（1名）
- 今までより日本の文化に触れることができると思った。（1名）
- 相手のことを考える気持ちが大事だと思った。（1名）

●成果と課題

- 剣道の学習では、絵（パネル）や授業協力者の示範、説明等により技能のポイントを提示し、段階的に練習をしたことにより、打突の仕方や受け方、足さばき等の基本的な技能を身に付けることができた。また、単元後半の「できばえ試合」では、勝敗や優劣について判定をするのではなく技の完成度について相互評価をする場を設定したことにより、自己の活動を振り返り次の活動に生かそうとする意識が高まり技能の向上につながった。さらに、生徒の学習記録には、伝統文化、歴史的背景、礼節についても理解を深めていることが多く記述されていた。
- 少林寺拳法の学習では、授業協力者からの説明により「過去の自分と今の自分を比較する」という考え方を基本にして学習をしたことで、「できないことができるようになった」などの成就感や達成感、ペアで協力して学習する楽しさを経験できたことが生徒の質問紙調査に回答されている。
- 武道の学習では、技能の習得をしていく過程で、その歴史的背景や伝統文化、礼節などにも触れることで生徒の理解がさらに深まる。次年度も、武道の専門家に指導協力を依頼するなど、体育授業における武道の効果的な指導について授業実践と研修を充実させる。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

少林寺拳法・剣道 突きや蹴りを用いる少林寺拳法から竹刀を用いる剣道につなげることで安全を意識した武道の授業の展開	紀北町立紀北中学校（三重県） 電話番号 0597（47）0269 メールアドレス kihoku.jh@kihoku.ed.jp
--	--

●実践研究のねらい

- 少林寺拳法から剣道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法をはじめ基本動作の違いや共通点に気付かせながら、技の指導では「取り」と「受け」を明確にし、それぞれの役割を理解させる。
- それぞれの技の練習において常に相手と組み合うため、相手を尊重する心を育む。
- 外部指導者の活用について、外部指導者と教師の役割分担を円滑にし、限られた単元計画内におけるそれぞれの武道の特質を理解させ、安全を確保した指導体制を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 全学年（6学級154名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
種目	少林寺拳法(1・2・3年生)					剣道（1・2年生）							
学習の流れ	オリエンテーション（少林寺拳法）	導入（挨拶、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）											
		準備運動				オリエンテーション（剣道）	準備運動（素振り）						
		突き・蹴り（剛法）の学習	組み手（柔法）の学習	天地拳第一系の相対での学習	学習のまとめ		素振り（面・小手・胴）による学習	新聞切り・ボール打ちによる学習	打ち込み稽古による学習	木刀による稽古法による学習	学習のまとめ		

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことが出来るよう、指導内容の精選を図る。
- 日常生活・実戦を意識した指導の充実
自分の身は自分で守るという意識を持たせるために、基本動作や技の動きを日常生活に例えて指導する。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
外部指導者から教師へ事前指導を受け、授業での安全面の確保について共通理解を図る。
- 形を習得する学習指導
少林寺拳法・剣道ともに定められた「形」があり、「形」を通してそれぞれの武道の特性を理解し、寸止めによる安全面への配慮などを工夫する。

●授業の様子



【オリエンテーション】

少林寺拳法の「鎮魂」(ちんこん)を通して心を落ち着かせる手法を紹介し、安全面に配慮することについて関心を高められるようにした。



【対人的技能の練習】

剣道の防具を着けずに、剣道の技能を高めるための練習方法として木刀による稽古法を取り入れた。その際も、安全面に十分に配慮しながら取り組ませた。

●生徒の意識、感想、変容など

- 巻き抜きなど、護身術が身に付き良かったです。(少林寺拳法)
- 武道の知識を学んだことで、感謝の気持ちや善の気持ちが高まりました。
- 知らなかったことをたくさん知ることができ、楽しく授業に参加できました。
- 新聞切りやボール打ちなど工夫があって楽しかった。来年の授業が楽しみです。(剣道)
- 日本の文化を身近に感じ、知ることが出来ました。
- 礼法を習って武道に興味を持ったし、呼吸法で落ち着くことが分かった。

●成果と課題

- 少林寺拳法と剣道を学び、それぞれの違いや特性を知ることができ、子どもたちだけでなく、教師も武道への知識が深まった。
- 少林寺拳法も剣道でもほとんどの子どもたちが未経験であり、日本の文化でもある武道を知ることにおいて複数種目を学ぶことは良かったと思う。それぞれの種目の共通点や違いがあり、それらにはきちんとしたねらいがある事が分かった。外部指導者に丁寧に説明して頂き、子どもたちもさらに興味・関心を持つことができた。
- 少林寺拳法も剣道も自分の身を守る術としても技術を身につけることができたが、子どもたちの中には組み合ったり、打ち合ったりするのに対し、恐怖心や意欲的になれない子どももいるため、配慮は必要である。また、休み時間等に冗談で技をかけあって怪我を起こしたりしないように事前の指導は必要である。
- 複数の武道を指導するうえで年間を通して単元計画を立てる必要がある。どうしても学校行事との関係で学期をまたいだり、他の単元を圧迫する形になったりしてしまった。また、冬場は足下が冷えるため、開催する季節も考慮しなければならない。そして、外部指導者のスケジュールも負担がないように調整する必要がある。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・銃剣道 武道の複数種目指導において外部指導者と連携し、武道に対する理解を深め、練習や試合を段階的に学ぶ授業の展開	小美玉市立小川南中学校（茨城県） 電話番号 0299（58）2444 メールアドレス 610701@sch.ibk.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 柔道から銃剣道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼法の共通点に注目させ、日本の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重しながら練習や試合に取り組むことができる指導を目指す。
- 柔道の「取り」「受け」、銃剣道の「元立ち」「習技者」の役割を理解させ、攻防について段階的な指導を目指す。
- 外部指導者を活用し、指導内容を精選し、限られた時間で効果的に学習を深められる指導方法を確立することを目指す。

●複数種目指導モデル 第1学年（3学級98名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
種目	オリエンテーション （柔道・銃剣道）	柔道											銃剣道	
学習の流れ		導入（あいさつ・伝統的な行動の仕方・健康観察・本時の学習の見通し）												
		礼法	準備運動・基本動作と受け身の練習										銃剣道の歴史	
													銃剣道の実演	
		柔道衣の着方	固め技の学習					投げ技の学習					基本動作の学習	
													対人的技能の学習	
		整理（整理運動・本時の振り返り・次時の連絡・あいさつ）												

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 外部指導者の活用
銃剣道において、模範演技や試合を見せることにより、学習内容を充実させる。
- オリエンテーションの充実
柔道、銃剣道ともにオリエンテーションを充実させ武道の伝統的な考え方について理解を深める。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な学習の仕方についての理解
オリエンテーションで、安全な学習をするための注意点を学習する時間を十分に確保する。
- 練習をする際の約束事や役割を明確にし、しっかりと理解させることで相手を尊重しながら安全に練習できる環境を整備する。

●授業の様子



【オリエンテーション】

銃剣道の特性や歴史、礼法、木銃の扱い方について外部指導者から指導を受けたことで生徒の関心と安全面への意識を高めることができた。



【対人的技能の練習】

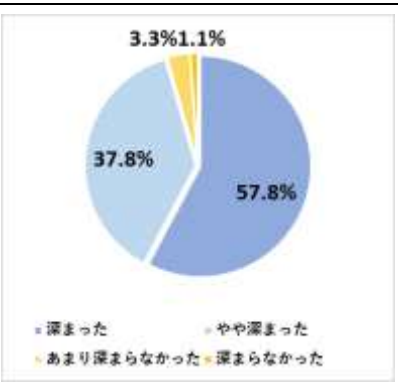
対人的技能は「突き」のみであり、習得しやすい内容であった。そのため、足さばきや発声といった学習にも時間を充てることができた。

●生徒の意識、感想、変容など

1 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



2 2種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。



【生徒の感想】

- ・講師の先生が丁寧に教えてくれたのでわかりやすかった。
- ・模範演技は迫力があつた。
- ・剣道と似ているのかと思ったけど、違うところが多くて面白かった。
- ・練習のときに講師の先生を突いてみたけど全然動かなかった。意外と力が必要だと実感した。

●成果と課題

- 学校側と外部指導者が連携して、柔道と銃剣道に共通する部分についても指導したことで、より武道への関心が高まったと考えられる。
- 小美玉市は自衛隊の百里基地があり、自衛隊の協力を得て銃剣道を実施することが可能である。地域との連携という観点からも有効であった。また、怪我の少ない競技ということもあり、生涯スポーツとしても取り組むことができる。
- 授業を実施するにあたっては、外部指導者との連携が重要となってくる。学習計画や役割分担などの打ち合わせを綿密に行うことが、武道の複数種目履修には不可欠であると考えられる。
- オリエンテーション1時間、柔道10時間、銃剣道2時間の計13時間の単元計画となった。銃剣道は2時間のみの実施となり、短時間での学習となった。理解を深めるためにはもう少し授業時間が必要である。授業時数捻出のためには、年間指導計画を調整しなければならない。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

柔道・銃剣道 礼法を理解し、自他の安全に努めながら、授業に意欲的な姿勢で取り組み、互いの技能を高める授業の展開	高島市立朽木中学校（滋賀県） 電話番号 0740（38）2314 メールアドレス kutsuki-jhs@scl.city.takashima.shiga.jp
---	---

●実践研究のねらい

- 柔道については、外部指導者の協力を得ることで、柔道をより専門的に理解する。また、きめ細かな指導が、生徒の武道に対する関心や意欲を向上させ、それを技能の向上へとつなげたい。
- 銃剣道については、柔道と同じく武道の一つであることを理解させながら、基本動作や礼法などを学ぶ。さらに、外部指導者の指導と実体験を通して、新たな技能や知識を習得させ、興味・関心をもたせたい。

●複数種目指導モデル 第1・2学年（2学級17名）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	柔道						銃剣道	
学習の流れ	導入（あいさつ、礼法、本時の見通し、道具の扱い方）							
	準備運動・基本動作、受け身練習						○歴史・礼法について ○構え、直れ、送り足 ○直突について ・新聞紙に突き ・指導者に突き	
	○歴史学習 ○体さばきについて ○姿勢について	○大腰の投げ方 ○寝技 ・袈裟固め ・横四方固め		○投げ技について ・体落とし ・大内刈り ・小内刈り ・膝車				

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 少人数に対してのきめ細やかな指導環境
生徒17名に対して、指導者が複数名関わることで、苦手な生徒やさらにレベルアップを望む生徒に指導しやすい環境である。
- 映像の活用
導入等で映像を活用し、競技のイメージをもたせてから実技を行う。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 複数の指導者による安全管理
少人数に対する複数の指導者により、常に危険な場面がないような環境をつくる。
- 受け身の指導の徹底と、道具の安全な使用についての説明
怪我の予防のために、安全指導を徹底する。

●授業の様子



【受け身の指導】

外部指導者より、受け身の重要性を伝えてもらいながら、専門的な指導を行った。



【銃剣による新聞を突く練習】

新聞紙を突き、きれいな穴が開くのか練習をした。生徒は楽しそうに取り組んでいる様子であった。

●生徒の感想を抜粋

《柔道》

- 柔道は技だけでなく、座り方、立ち方、正座の仕方、靴の並べ方などたくさんのルールがあることを学ぶことができました。
- 最初はちょっと怖かったけど、だんだん投げられるのが楽しくなってきたのでよかったです。
- 投げ技をした際に、袖を持つ手を放しそうなだったので、次回から気をつけたいです。

《銃剣道》

- 初めて銃剣道をして、とても迫力があってすごいと思いました。実際の試合も見たいです。
- DVDを見た時は突くだけで、意外と簡単そうだなと思いました。でも、やってみると足の角度やタイミングがとても難しかったです。先生の突きはすごく速くてカッコ良かったです。

●成果と課題

- 柔道については、2年生は昨年度も学習している状況ではあったが、より専門的な指導を受けることにより、知識を深め技能を向上することができた。また、投げ技の練習の際には、特に安全に配慮しながら行うことで、他者を思いやる気持ちを育みながら技能の向上につなげることができた。投げ技や固め技について、外部指導者から技のポイントなどを詳細に学ぶことができた。生徒も楽しく真剣に一つひとつの技に取り組む場面が見られた。
- 銃剣道については、生徒にとって初めてであったが、礼法が柔道とも似ておりスムーズに指導に入ることができた。柔道とは違い、木銃という道具を使用するのだが、使用方法をしっかりと守れば、授業を安全で円滑に進めやすい種目であることが分かった。複数の指導者から丁寧に指導していただいたことで、生徒はとても意欲的に取り組んでいる様子が見られた。
- 少ない指導時間の中で、柔道や銃剣道のよさを実感させることや男女差や実力差に応じた指導を行うことが課題である。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

銃剣道・剣道 銃剣道から剣道をつなげることで、複数の武道に共通した動きを段階的に学ぶ授業の展開	南砺市立井口中学校（富山県） 電話番号 0763（64）2053 メールアドレス inokuchi-jhs@tym.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 複数の武道を学ぶことで、足さばきやすり足等の基本動作の共通点や武道の伝統的な考え方や行動の仕方について気付かせる。特に、技の指導では、突きのみの銃剣道から攻め方が多種にわたる剣道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 限られた単元計画内における指導内容の精選や安全性確保のための役割分担等、効果的な外部指導者の活用について検討する。

●複数種目指導モデル 全学年（3学級18名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	銃 剣 道		剣 道						
学 習 の 流 れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し） 準備運動								
	・銃剣道の歴史・特性 ・礼法 ・構え ・直れ ・木銃の扱い方	・足さばき 送り足 開き足 歩み足 ・突き方 ・突いた姿勢 ・基本の交差の直突 ・目標物を突く	座礼・立礼	基本打突	切り返し	応じ技	係り稽古	紅 白 試 合	
			防具の付け方 しまい方						
			構え方 間合い 素振り		切り返し	引き技 払い技	試合の進め方 練習試合		練習試合

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 共通する動きの徹底
剣道と銃剣道に共通する基本の動きがしっかりと身に付くよう、指導を繰り返す。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より、安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
- 防具等の点検と安全確保
竹刀や木銃等、防具の安全性を確保するために毎時間のはじめに点検を行う。また、防具の正しい扱い方や危険な動作や禁じ技等について繰り返し指導する。

●授業の様子



【オリエンテーション】

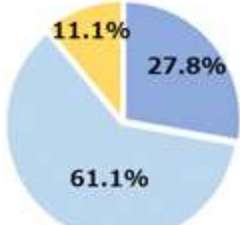
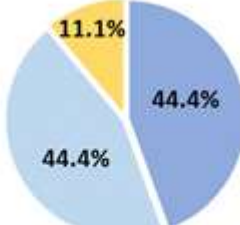
銃剣道の特性や成り立ち、伝統的な行動の仕方等についてDVDを活用し、関心を高められるようにした。



【正しい突き技の練習】

正しい突き技の反復練習の後、実際に講師の先生を目標物として突くことにより、正しい突き方や姿勢の確認を行った。

●生徒の意識、感想、変容など

1 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2 2種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。
 ■ 高まった ■ やや高まった ■ あまり高まらなかった	 ■ 深まった ■ やや深まった ■ あまり深まらなかった	 ■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない

●成果と課題

- 銃剣道から剣道につなげた学習は、足さばきやすり足等に相違点を見出しながら学習することができ、技能を習得しやすかったと感じた生徒が多くいた。また、銃剣道を体験した後の剣道の授業では、体験前と比べると足さばきや体さばきが明らかに上手になった。
- 意識調査の結果から、大半の生徒が、複数武道の学習を通して、剣道以外の武道にも関心を持ち、日本古来の行動の仕方や考え方について理解を深めていた。
- 銃剣道の指導は、専門性が高く、外部指導者の存在は大変重要である。教員研修の推進、外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。
- 今年度は、剣道7時間の指導計画に銃剣道2時間を加えて単元計画とした。銃剣道については、継続して取り組みたいと思っている生徒が多いので、来年度の指導計画を検討したい。

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

相撲・銃剣道 基本動作と基本となる技について、段階的に学ぶ学習の展開	名寄市立名寄東中学校（北海道） 電話番号 01654（2）3174 メールアドレス nyr-higashi-chu-1@hokkaido.school.ed.jp
---	--

●実践研究のねらい

- 複数種目の武道指導を計画し、基本動作を通した、相撲と銃剣道で武道として共通している内容と運動の特性による違いについての指導の充実を図る。
- 外部指導者と連携して、単元の指導計画を作成し、指導内容の政戦を図るとともに、安全を確保した指導体制を確立する。

●複数種目指導モデル 第1学年（3学級80名）

	1	2	3	4	5	6	7
種目	相 撲						銃剣道
学 習 の 流 れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）						
	オリ エン テー ション	準備運動					礼法
		基本動作の学習					
	基本動作 の練習	対人技能の学習 （簡易的な試合①）		対人技能の学習 （簡易的な試合②）			基本動作 の学習
							対人技能 の学習
	整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）						

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- オリエンテーションの充実
オリエンテーションの際に、銃剣道のイメージを生徒にもたせることができるよう、DVDを活用するなどの工夫を図る。
- 外部講師と連携した綿密な指導計画の作成
学習内容や指導の要点について綿密に立案し、外部講師との共通理解を図る。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の行い方についての説明を行う場を設ける。
- 外部指導者の協力による複数指導体制
木銃の使用やスペースの取り方について、きめ細かい指導を行うため、外部指導者3名及び教員1名の計4名での指導体制とする。

●授業の様子



【オリエンテーション】

外部指導者が、冊子資料及びDVDを活用し、歴史や特性などについて説明をすることで、関心・意欲を高めることができたようにした。

また、授業の目標を明確にすることにより、生徒一人一人が見通しをもって学習に取り組むことができたようにした。

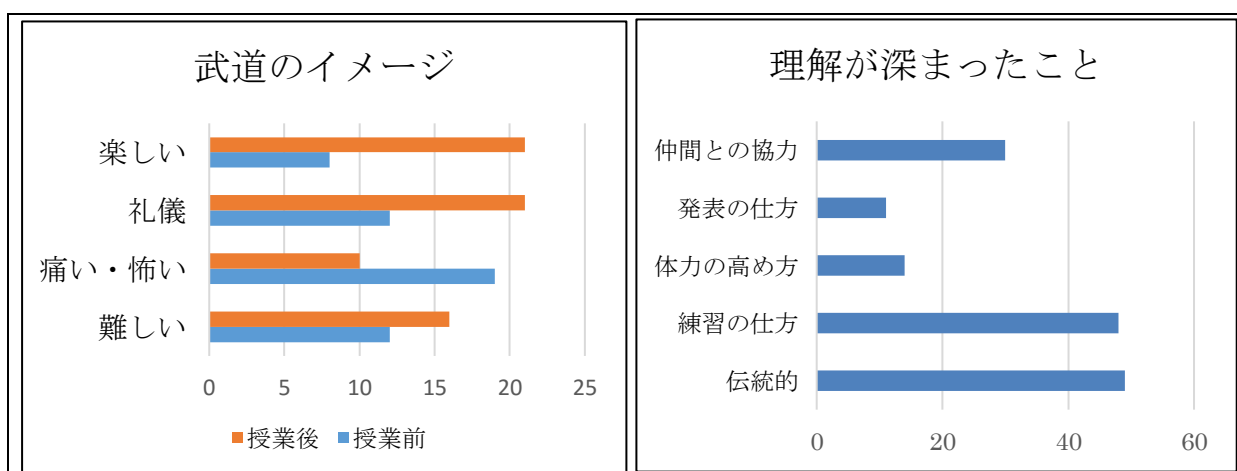


【対人的技能の練習】

木銃を持たずに足の運びや木銃の持ち方など、スモールステップでの技術習得に取り組んだ。

木銃を使用する練習では、3パターンの練習内容を設定し、効率的に練習を進め、特性に十分に触れることができたようにした。

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題 (○成果 ●課題)

- 相撲と銃剣道の複数種目の関連を図った武道の指導計画を立案したことにより、生徒は共通している内容について理解を深めることができた。
- 銃剣道については、体験的な学習であったため、技能の高まりはあまり見られなかったが、生徒は意欲的に学習に取り組むことができた。
- 銃剣道については、地元の銃剣道連盟の協力を得ることができたが、継続的に行うためには、指導者と用具の確保が課題である。
- 教科体育の全体の時間数は限られているため、武道のみに多くの時間を配当することができないことから、両種目に共通する指導の重複を見直し、必要な時間数を他領域の時間数と調整しながら確保する必要がある。